

HUL (Historic Urban Landscape) 連続シンポジウム

①HULとは？

ユネスコ勧告を読む

倉敷の都市景観の未来を創る新しい枠組みを考えるシンポジウム

2020.12.13

福川裕一（全国町並み保存連盟）

伏線

- 重伝建地区の外にある川越鶴川座取り壊し（2019夏）
関東ブロックの栃木見学（2019.7.9）：蔵の大通りはなぜ重伝建地区にならないのか、
ならなくてよいのか？
谷中を重伝建地区にという運動
- 北京でHULについてのシンポジウム（2019.11.14-16）
- 川越重伝建地区選定20周年記念シンポジウム

伏線

- 重伝建地区の外にある川越鶴川座取り壊し (2019夏)
関東ブロックの栃木見学 (2019.7.9)
谷中の重伝建地区運動
- 北京でHULについてのシンポジウム (2019.11.14-16)



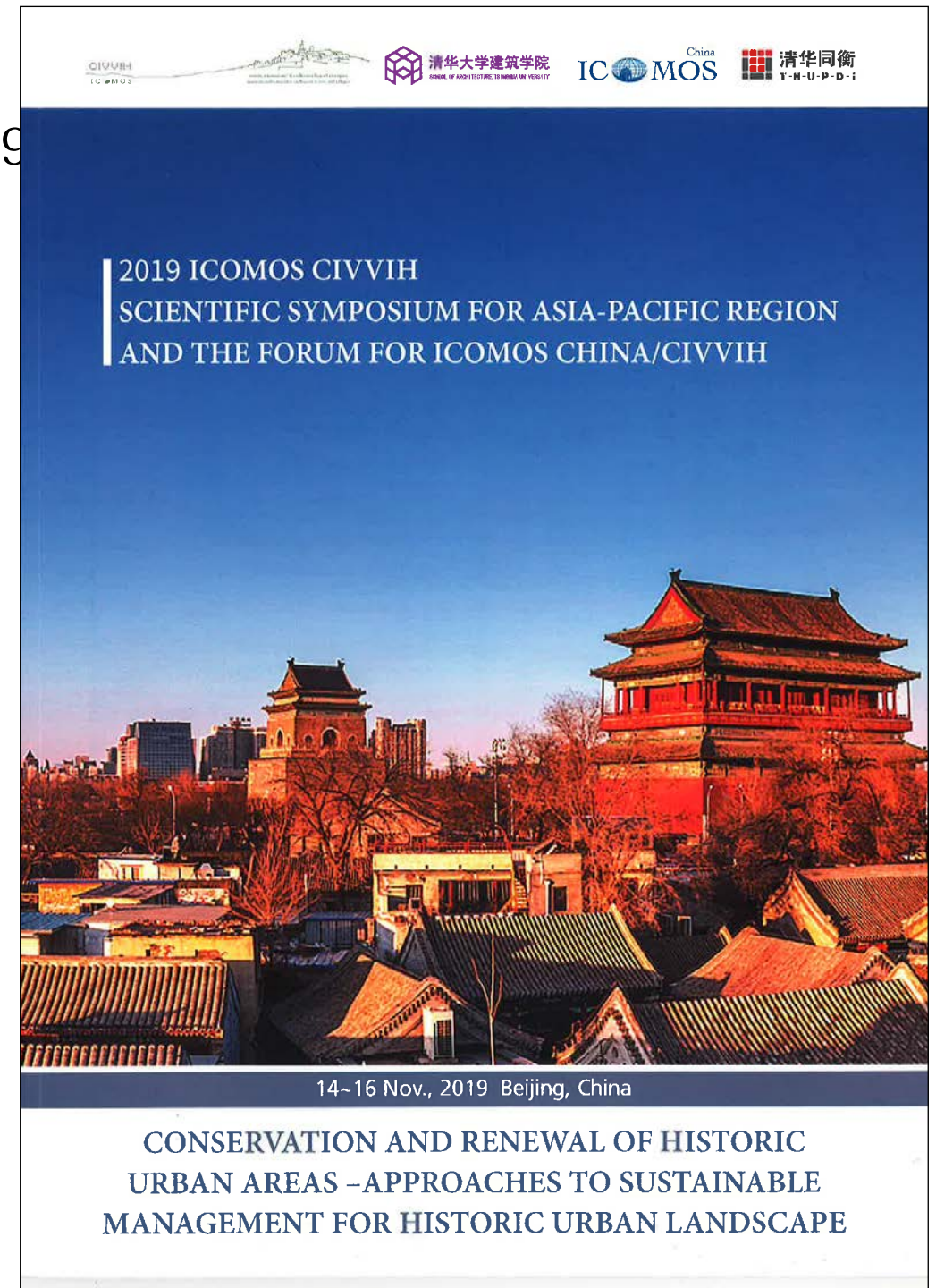
旧山崎家別邸 (1925)
重要文化財指定



鶴川座 (1900)
取り壊し

伏線

- 重伝建地区の外にある川越鶴川座取り壊し（2019）
関東ブロックの栃木見学（2019.7.9）
谷中を重伝建地区にという運動
- 北京でHULについてのシンポジウム
（2019.11.14-16）



CIVVIH: international committee on historic cities, towns and villages (2002-)

歴史まちづくり法

地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律

Law on the Maintenance and Improvement of Historic Landscape in a Community, 2008

街なみ環境整備事業

- ◆ 重点区域または街づくり協定等が結ばれた地区において、協議会活動、建造物の修景、地区公共施設の整備等について、総合的に支援します。
- ◆ 歴史的風致形成建造物については、修理、買取り、移設、復原についても支援します。(ただし、10年以上の一般公開を行うことが条件。交付率は、直接1/2、間接1/3)

【広島県竹原市】酒蔵(歴史的風致形成建造物)の保存修理



修理前

修理後

都市公園等事業

- ◆ 古墳、城跡、旧宅等の遺跡及びこれらを復原したもので歴史上または学術上価値の高いものが対象となります。
- ◆ 公園管理者以外の地方公共団体及び歴史的風致維持向上支援法人に対しても支援します。

【石川県金沢市】河北門及び橋爪門の復原



復原された橋爪門

都市再生整備計画事業

- ◆ 認定計画に基づく事業を行う地区で一定の要件を満たす場合には、交付率の上限を現行の40%から45%に拡充します。
- ◆ 古都及び緑地保全事業、電柱電線類移設、土塁・堀跡の整備等の新たな基幹事業の追加により、市町村の創意工夫をより一層活かした取組を支援します。

【茨城県水戸市】水戸城跡周辺地区内の道路美装・無電柱化



整備前

整備後

歴史的観光資源高質化支援事業

- ◆ 観光の核となる歴史的建造物を含めた歴史的まちなみ全体の質を向上させるため、歴史的まちなみを阻害する建築物等の改修・除却等を支援します。
- ◆ 歴史的まちなみを阻害する建築物の外観の改修、歴史的まちなみの連続性を損なう塀の除去等に対して支援します。(補助率は1/3以内、観光庁が指定する地域において実施されるものが対象)

【改修・復元(イメージ)】



歴史的風致活用国際観光支援事業費補助金

- ◆ 歴史的風致活用国際観光整備計画に基づく訪日外国人の受入環境に係るソフト・ハード両面の取組に対して総合的に支援します。
- ◆ 訪日外国人受入のためのデータ収集、案内板等の多言語化、歴史・文化ガイドリーダーの育成、体験プログラムの開発等に対して支援します。(補助率は、市町村1/2、民間1/3以内)

【岐阜県高山市】ガイド育成

【青森県弘前市】体験プログラムの開発



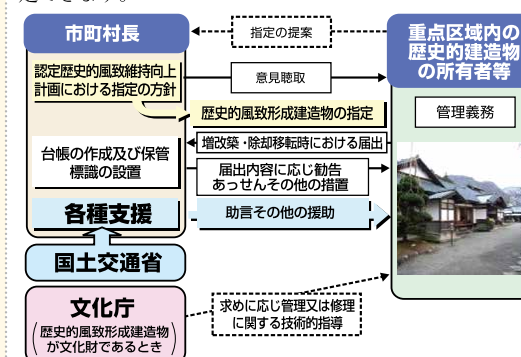
日本遺産 (Japan Heritage)

- ◆ 文化庁では、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援しています。
- ◆ 歴史的風致維持向上計画が認定されると、日本遺産の「地域型」に認定申請することができます。



歴史的風致形成建造物 (法第12条~21条)

市町村長が、重点区域内の歴史的な建造物を、歴史的風致維持向上計画に即して歴史的風致形成建造物として指定できます。



地域用水環境整備事業

- ◆ 歴史的風致維持向上計画に位置付けられた農業水利施設等の土地改良施設を整備の対象とすることができます。

【群馬県甘楽町】雄川堰の改修



改修前

改修後

歴史まちづくりを重点的に進める区域 (重点区域)

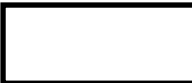
城郭建築(重要文化財)

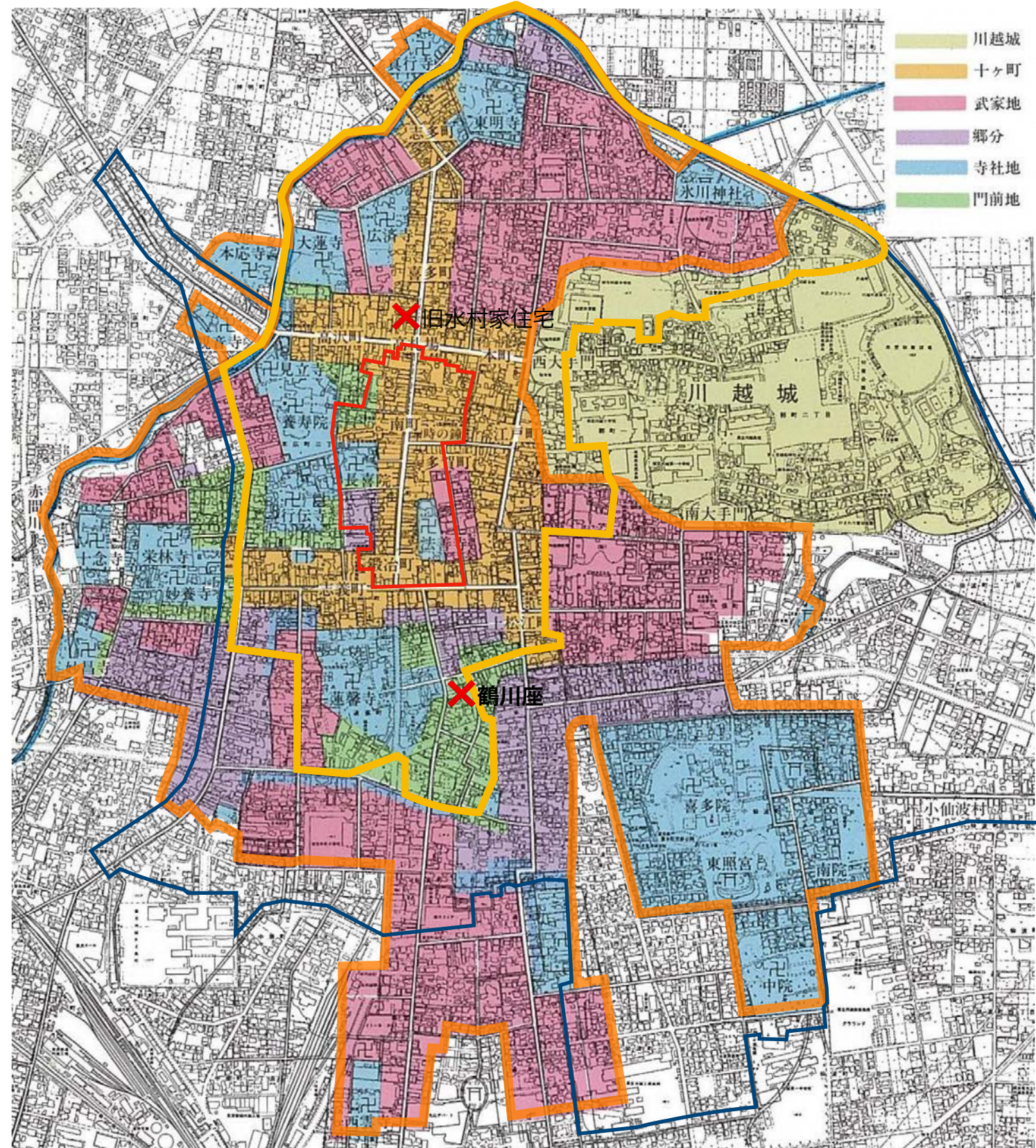
大名庭園(名勝)

川越の場合

★制度をフル装備

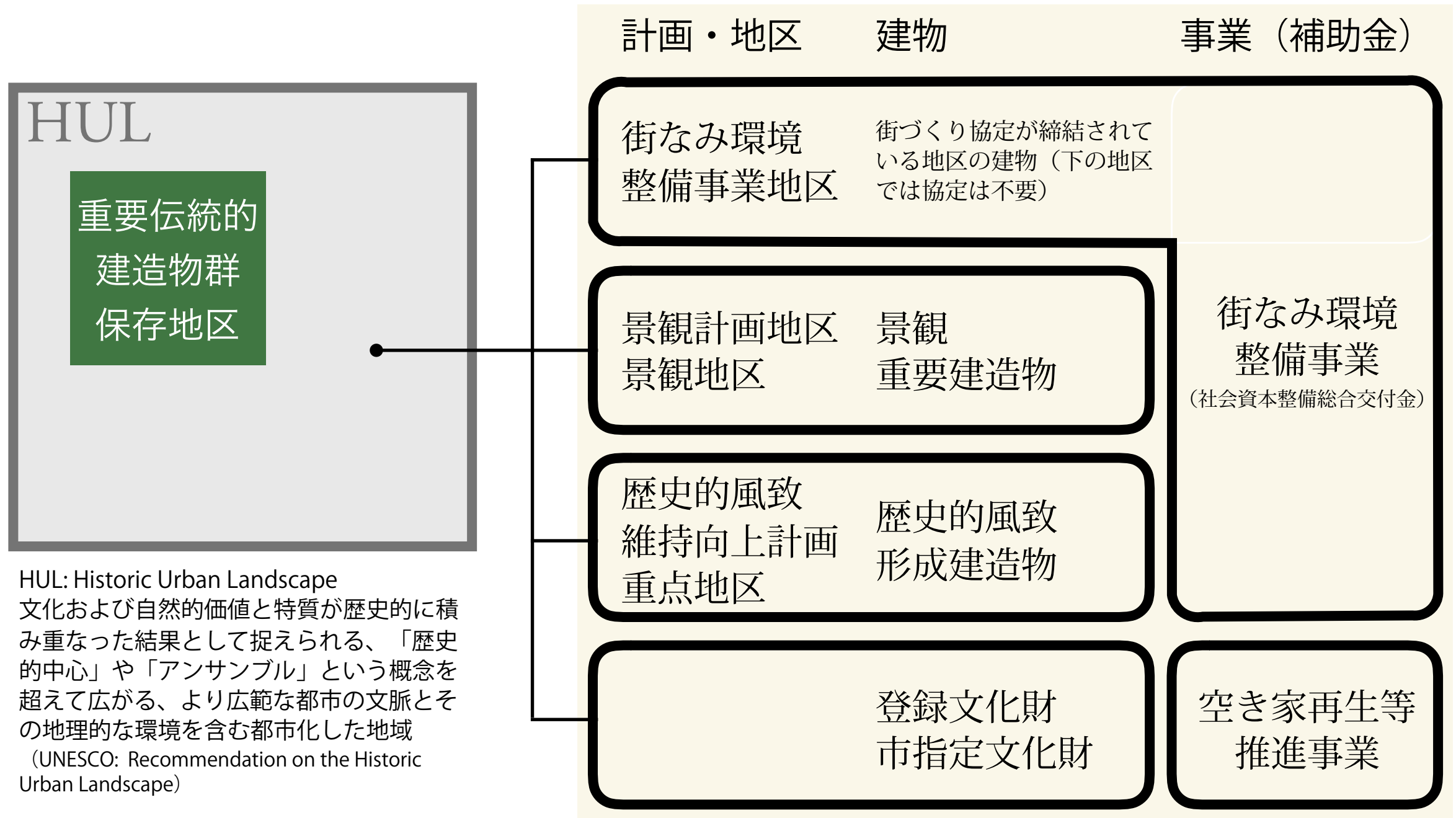
- 重伝建地区の周辺に、都市景観形成地域、歴史的風致維持向上計画重点地区を重ね、街なみ環境整備事業でバックアップ。94の歴史的風致形成建造物を指定
- しかし、旧鶴川座は、保存活用事業が計画されていたにもかかわらず、また江戸中期の旧水村家住宅は無指定のまま取り壊された

-  歴史的風致維持向上計画重点地区
-  街なみ環境整備促進区域
-  街なみ環境整備事業区域
-  景観計画区域（市全域）のうち都市景観形成地域（＝旧十カ町四門前）
-  重要伝統的建造物群保存地区
-  旧城下町地区



重伝建地区周辺の歴史的建物が急速に失われている

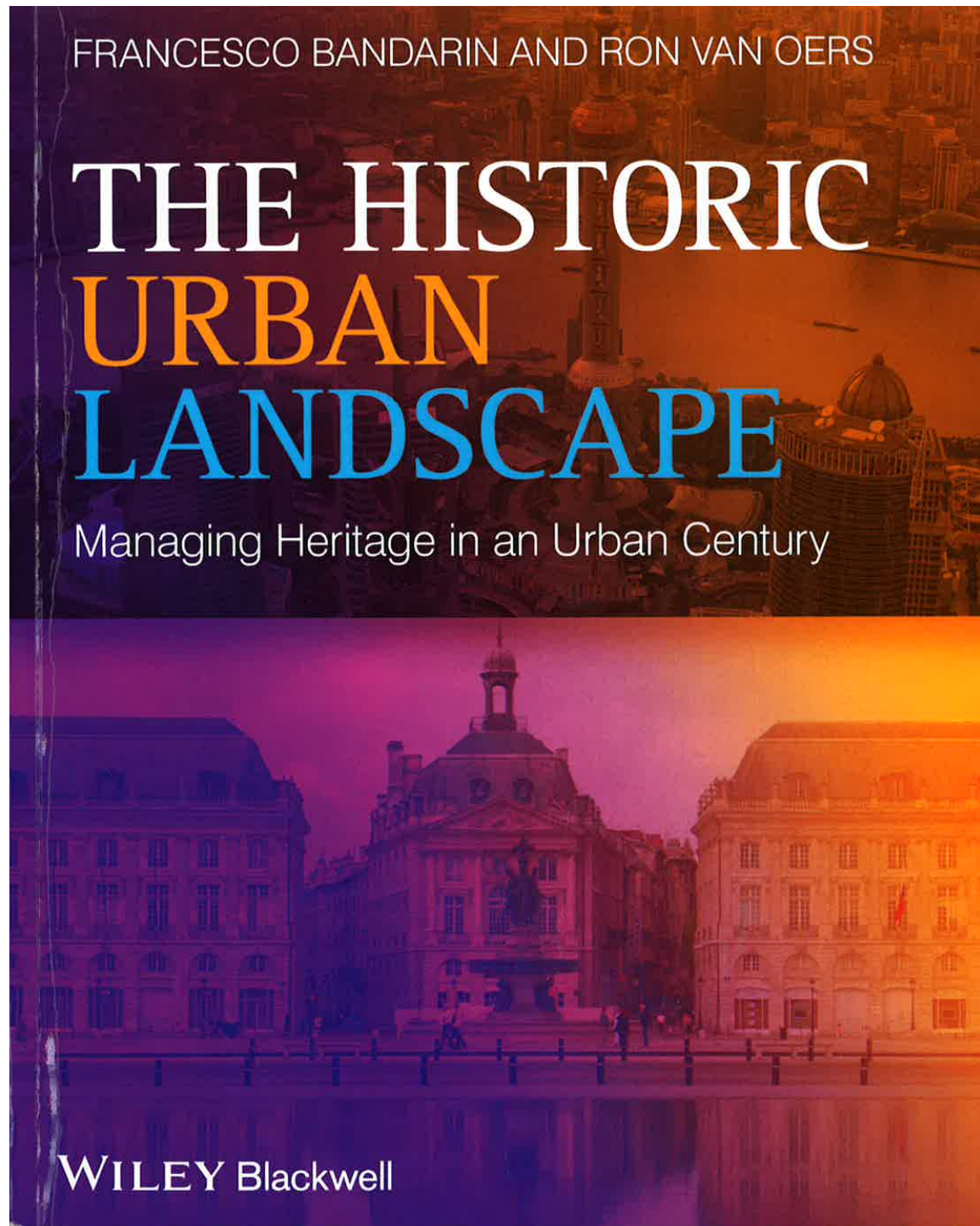
★制度を駆使して重伝建地区周辺（および伝建地区になりきれていない地区）の歴史的建物を守ろう



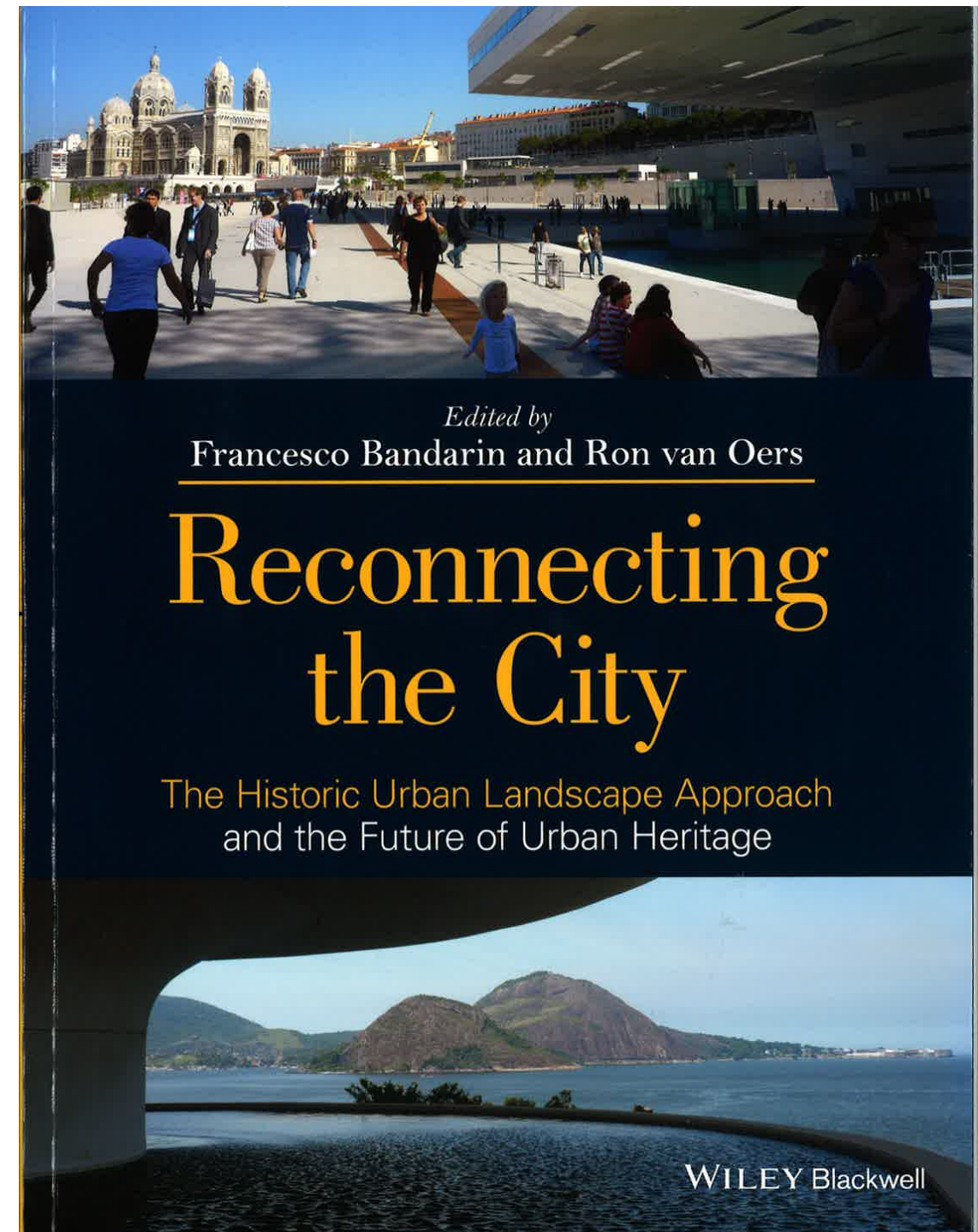


RECOMMENDATION ON THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

Paris, 10 November 2011



2012



2015

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO G
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的又は私的の工事によって危険にさらされる文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

Paradigm
shift

HULに関する勧告

2011.11.10、パリで行われたユネスコ総会で決議

前文

序（1～7）

より広い都市の文脈で、歴史的エリアを特定・保全・管理するためのランドスケープアプローチを提案する

I. 定義（8～13）

II. HULへの挑戦と機会（14～20）

プレッシャー：都市化とグローバリゼーション（17）、開発（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

III. 政策（21～23）

都市遺産の保全は総合的な政策の計画と実践に統合されるべきで、各ステークホルダーがそれぞれつとめる

IV. ツール（手段）（24）

a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システム、d) 資金調達ツール

V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

ベストプラクティスを共有し、キャパシティ・ビルディングにつとめる

付録（用語）：主に過去の憲章等の定義をひく

Historic area/city, Historic urban area, Urban heritage, Urban conservation, Built environment、Landscape approach, Historic urban landscape, Setting, Cultural significance

HULに関する勧告：前文

1. 未曾有の都市化の時代にあって、2. 都市の制御が課題、3. その場合、都市の歴史遺産の保全が鍵、4. モニュメントから文脈の保存にシフトしても、政策やツールは重要

1. 私たちの時代は、歴史上最大の人口の移動を目撃している。現在、**世界の人口の半分以上が都市エリアに住む**。都市エリアは、成長の原動力として、そして革新と創造の中心としてますます重要になっている；都市は雇用と教育の機会を提供し、人々の進化するニーズと願望に応えている。

2. しかしながら、急速で制御されていない都市化は、しばしば**社会的および空間的な断片化をもたらす**、**都市環境および周辺の農村地域の質の劇的な悪化をもたらす**可能性がある。特に、これは、過度の建物密度、標準化され退屈な建物、公共空間とアメニティの喪失、不十分なインフラストラクチャ、身体を蝕む貧困、社会的孤立、および気候関連災害の増大するリスクの原因となる可能性がある。

3. 都市の歴史遺産は、有形無形の要素を含み、都市エリアの住みやすさを高める上で重要な資源を構成し、変化する地球環境における経済発展と社会的結束を育む。人類の未来は資源の効果的な計画と管理にかかっている。なので、**保全は持続可能な形で都市の成長と生活の質のバランスを達成するための戦略となる**。

4. 過去半世紀間、都市遺産の保全は、世界の公共政策の重要な部門として浮上した。それは、共有された価値を維持し、歴史遺産から利益を得る必要性へ呼応したものだだった。しかしながら、**都市の価値の保護が、もっぱら建築的記念物を強調することから、社会的・文化的・経済的プロセスの重要性をより幅広く認識することへシフトしても、既存の政策を適用し新しいツールを作り出す運動と組み合わせ、このビジョンに取り組むべきだ**。

HULに関する勧告：前文

5. より広い都市の文脈で、歴史的エリアを特定・保全・管理するためのランドスケープ・アプローチを提案する、6. 利害関係者の合意が鍵、7. 従前の勧告も生きている

5. この勧告は、総合的な持続可能な発展というより大きな目標の中に、都市遺産保全の戦略をよりよく統合し枠組みをつくる必要について取り扱い、人間の環境の質の維持と向上を目的とした公共および民間の行動を支援する。この勧告は、より広い都市の文脈の中で、歴史的エリアを特定し・保全し・管理するためのランドスケープ・アプローチを提案し、物理的な形態、空間的な組織と関係、自然の特徴と環境、および社会的・文化的・経済的価値の内的相互関係を検討する。

6. このアプローチは、都市開発プロセスにおける地方・国・地域・国際・公的および私的な主体を含む、さまざまな利害関係者が関与する方針・ガバナンスおよびマネジメントに関することを扱う。

7. この勧告は、歴史遺産保存に関連する4つの以前のユネスコ勧告に基づいており、保全の歴史と実践におけるそれらの概念と原則の重要性と妥当性を認識している。さらに、現代の保護条約と憲章は、文化的遺産と自然遺産の多くの側面について扱っており、この勧告の基礎を構成している。。

HULに関する勧告：定義

2011.11.10、パリ

8. HULは、文化的および自然的な価値と属性が**歴史的に積み重なった結果**として理解される都市エリアであり、「歴史的な中心」または「アンサンブル」の概念を超えて広がる、**より広い都市の文脈**とその地理的環境を含む。

9. この**より広い文脈**には特に以下を含む：

- サイトの地誌、地形学、水文学および自然の特徴；
- 歴史的および現代の人工的環境；
- 地上と地下のインフラストラクチャ；
- そのオープンスペースと庭園；
- その土地利用パターンと空間構成；
- 知覚的および視覚的關係；
- 都市構造のすべてのその他の要素。

さらに、以下を含む：社会的および文化的慣習と価値、経済プロセス、および多様性とアイデンティティに関わる歴史遺産の無形の側面。

10. この定義は、持続可能な発展全体のフレームワークの中でのHULの特定・評価・保全・および管理のための包括的かつ統合された**アプローチ**の基礎を定める。

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的又は私的の工事によって危険にさらされる文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章	EU
1976	歴史的地域の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

直接のきっかけ

- ☆Potsdam
- ☆Vienna 2017
- ☆Cologne
- ☆St Petersburg
- ☆Bordeaux
- ☆Esphahan
- ☆Istanbul
- ☆Dresden delisted 2009
- ☆Riga
- ☆Vilnius
- ☆Sevilla
- ☆Avila, Graz
- ☆Liverpool 2012
- ☆Tallinn

直接のきっかけ

☆Potsdam
☆Vienna
★Cologne
☆St Petersburg
☆Bordeaux
☆Esphahan
☆Istanbul
☆Dresden
☆Riga
☆Vilnius
☆Sevilla
☆Avila, Graz
☆Liverpool
☆Tallinn

2003

2002年半ば決定のスタープランで、大聖堂の対岸のドイツ地区に超高層ビルができることに懸念を表明

2003.6-7 27th WHC (Paris)

UNESCO/ICOMOS調査への協力、締約国のSOCレポートを要求

2003.11

Joint UNESCO/ICOMOS Mission Report (Reactive monitoring report)

専門家会議、UNESCOが4点指摘：①大聖堂の保全、②バッファゾーン含む効果的な線引きの必要性、③環境的および文化的景観の文脈でサイトを考え、スカイラインの視覚的完全性の保護する必要、④OUVへの悪影響を避ける建築の工夫

2004.1.29

ドイツ当局報告。高層ビルに執着、ICOMOSはこれでは大聖堂の空間的質が壊れると回答

2004.6-7 28th WHC (蘇州)

危機遺産への記載を決定

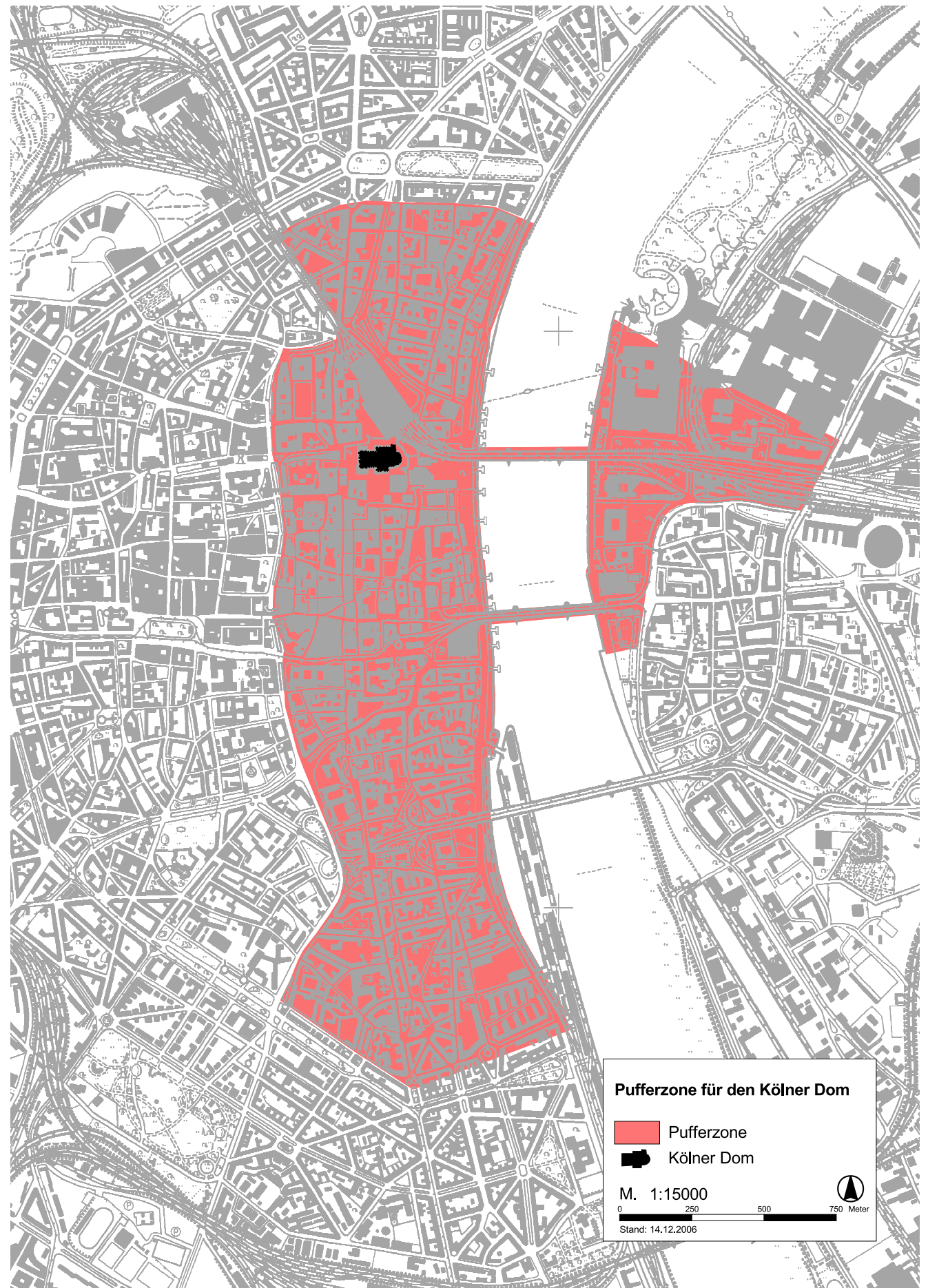


直接のきっかけ

☆Potsdam	2003	2005.5.12
☆Vienna	2002年半ば決定のスタープランで、大聖堂の対岸のドイツ地区に超高層ビルができることに懸念を表明	ケルン市、ウィーン会議で発表
★Cologne	2003.6-7 27th WHC (Paris)	2005.7 29th WHC (Durban)
☆St Petersburg	UNESCO/ICOMOS調査への協力、締約国のSOCレポートを要求	①バッファゾーン確定せず、②高さ緩和、③RZVKビルが完成（2005.9）さらに4棟が計画中。④ビジュアルインパクト調査が疑問→危機リスト記載維持
☆Bordeaux	2003.11	2006.1
☆Esphahan	Joint UNESCO/ICOMOS Mission Report (Reactive monitoring report)	ケルン市：ドイツ地区の開発計画を変更、4つのタワーの建設を中止、左岸にバッファゾーンを設ける
☆Istanbul	専門家会議、UNESCOが4点指摘：①大聖堂の保全、②バッファゾーン含む効果的な線引きの必要性、③環境的および文化的景観の文脈でサイトを考え、スカイラインの視覚的完全性の保護する必要、④OUVへの悪影響を避ける建築の工夫	2005.7 30th WHC (Vilnius)
☆Dresden	2004.1.29	危機遺産リストから削除。バッファゾーン右岸への拡大、ウィーン・メモランダム適用、SOCレポートを要求
☆Riga	ドイツ当局報告。高層ビルに執着、ICOMOSはこれでは大聖堂の空間的質が壊れると回答	2006.12.14
☆Vilnius	2004.6-7 28th WHC (蘇州)	ケルン市議会がバッファゾーンの右岸への拡大を決定、ドイツ地区の再開発についてワークショップ。
☆Sevilla	危機遺産への記載を決定	2008.6-7 31st WHC (Christchurch)
☆Avila, Graz		バッファゾーン拡大を承認
☆Liverpool		
☆Tallinn		

直接のきっかけ

- ☆Potsdam
- ☆Vienna
- ★Cologne
- ☆St Petersburg
- ☆Bordeaux
- ☆Esphahan
- ☆Istanbul
- ☆Dresden
- ☆Riga
- ☆Vilnius
- ☆Sevilla
- ☆Avila, Graz
- ☆Liverpool
- ☆Tallinn



直接のきっかけ

- ☆Potsdam
- ☆Vienna
- ★Cologne
- ☆St Petersburg
- ☆Bordeaux
- ☆Esphahan
- ☆Istanbul
- ☆Dresden
- ☆Riga
- ☆Vilnius
- ☆Sevilla
- ☆Avila, Graz
- ☆Liverpool
- ☆Tallinn



直接のきっかけ

- ☆Potsdam
- ★Vienna
- ☆Cologne
- ☆St Petersburg
- ☆Bordeaux
- ☆Esphahan
- ☆Istanbul
- ☆Dresden
- ☆Riga
- ☆Vilnius
- ☆Sevilla
- ☆Avila, Graz
- ☆Liverpool
- ☆Tallinn

‘Wien-Mitte’ project

1999年に4本の超高層計画が浮上、2002年にWHCで議論。2003年にいったん断念、設計を変更し、高さを70mとする規制をかけ2011年に完成

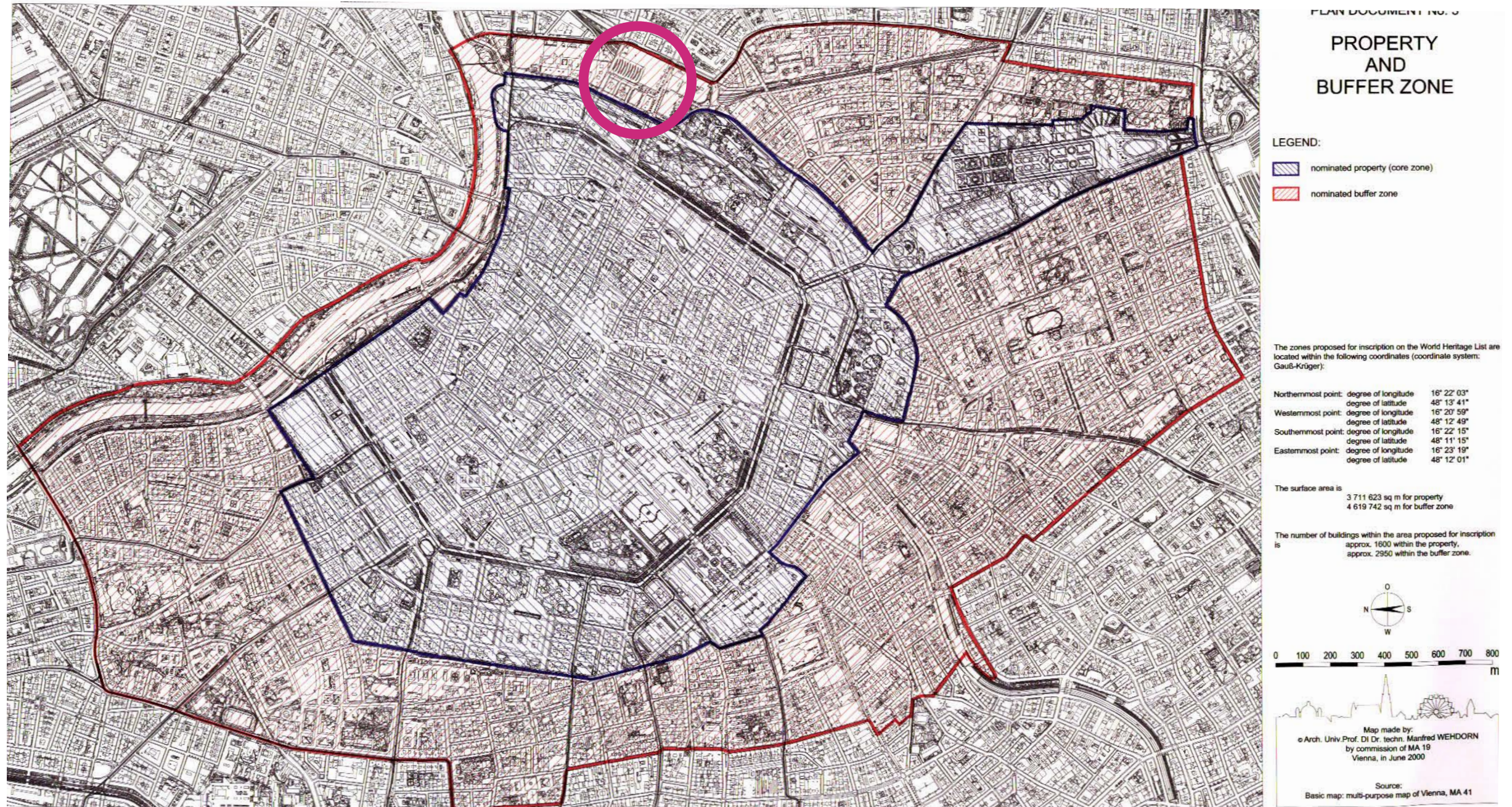


2002年当初案

手前の超高層はできて
しまった

‘Wien-Mitte’ project

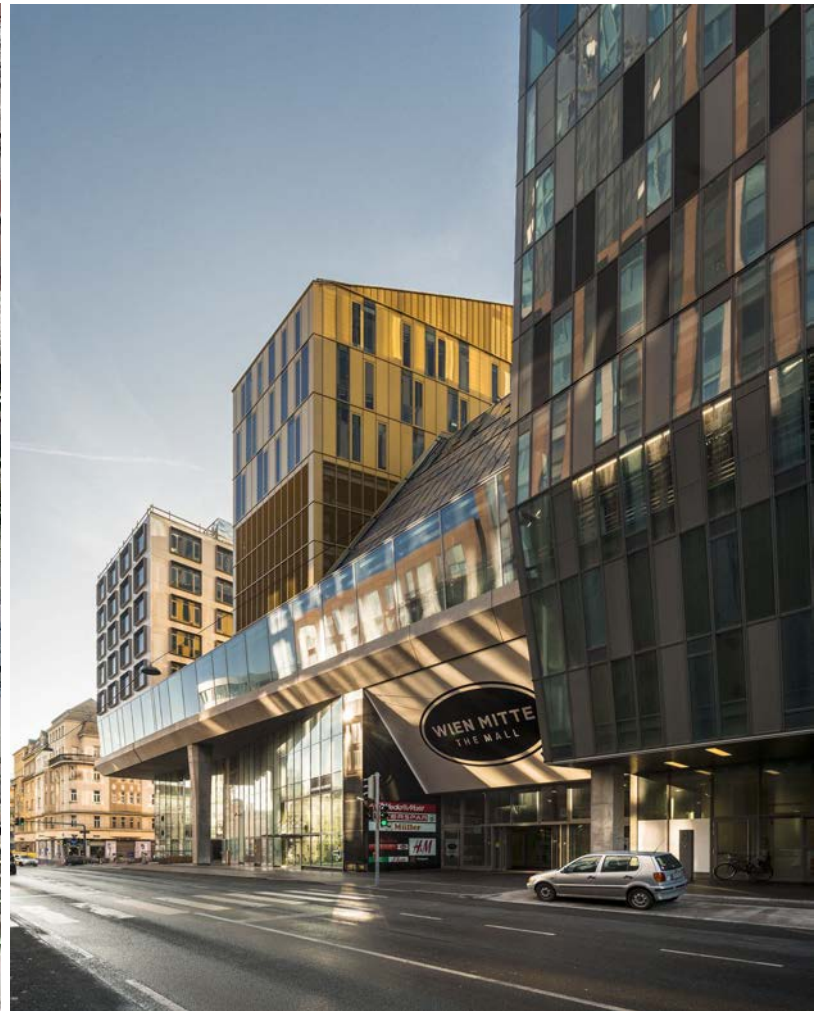
世界遺産の名称は「Historic Centre of Vienna」 2001年登録
プロジェクトはバッファゾーン内



‘Wien-Mitte’ project

2005年の新案





Vienna Ice-Skating Club – Intercontinental Hotel – Vienna Konzerthaus (Heumarkt) project

2012年に浮上、2017年に危機遺産リストに

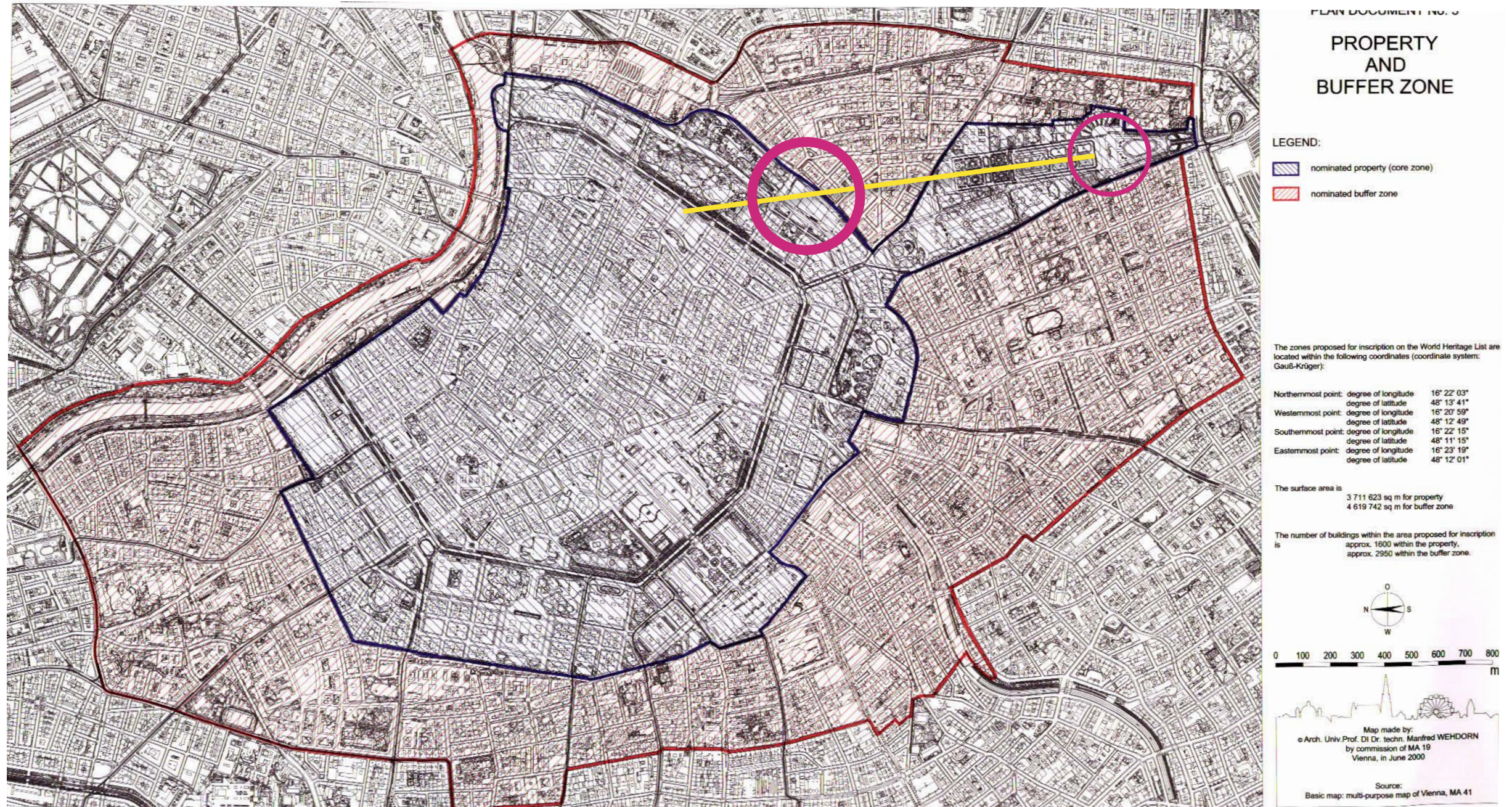


UNESCO-World Heritage; Palace and Gardens of Schönbrunn (Austria) (C 786) and Historic Centre of Vienna (Austria) (C 1033):
State of Conservation Report

19. January 2015

Vienna Ice-Skating Club – Intercontinental Hotel – Vienna Konzerthaus (Heumarkt) project

今度は区域内、ベルデベール宮殿の軸線上



ベルヴェデーレ宮殿 からの眺望

- 2019年のWHCでは危機遺産に留め置き
- 2020年のWHCはコロナで延期



REPORT ON THE JOINT HIGH LEVEL UNESCO WORLD HERITAGE CENTRE ICOMOS
ADVISORY MISSION TO

THE HISTORIC CENTRE OF VIENNA, AUSTRIA [1033];

FROM 11 TO 15 NOVEMBER 2018





Bernardo Bellotto (1721-1780)

Vienna Ice-Skating Club – Intercontinental Hotel – Vienna Konzerthaus (Heumarkt) project

2012年に浮上、2017年に危機遺産リストに

- 事業者は73mから66.3mへ修正したが、WHCは不十分と判断、危機遺産に登録
- 2019年のWHCでは危機遺産に留め置き
- 2020年のWHCはコロナで延期





World Heritage property "Historic Centre of Saint Petersburg and Related Groups of Monuments"
Component No. 540-001. Historic Centre of Saint Petersburg. Proposed delimitation (2012)

直接のきっかけ

Lakhta Center, 2020

- ☆ Potsdam
- ☆ Vienna
- ☆ Cologne
- ★ St Petersburg
- ☆ Bordeaux
- ☆ Esphahan
- ☆ Istanbul
- ☆ Dresden
- ☆ Riga
- ☆ Vilnius
- ☆ Sevilla
- ☆ Avila, Graz
- ☆ Liverpool

Lakhta Center reached the design height



Gazprom HQ Project, 2005

0 500 1000
meters

☆ Tallinn

- Component No. 540-001. Proposed delimitation (2012)

■ - Cultural heritage properties (ensembles)

Surface: 3934,1 ha

- | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. Peter and Paul Fortress | 9. Smolny Monastery | 17. Kazansky Cathedral |
| 2. Kronwerk | 10. Alexander Nevsky Monastery | 18. Gostiny Dvor |
| 3. "Strelka" of Vassilyevsky Island | 11. St. Michael's Castle | 19. Zodehego Rossi Street |
| 4. Chief Admiralty | 12. Square of Arts | 20. Vladimirskaia Square |
| 5. Dvortsovaia Square | 13. St. Isaac's Square | 21. Krestovozdvizhenskaya Church |
| 6. Field of Mars | 14. New Holland | 22. Smolenskoe Cemetery |
| 7. Summer Garden | 15. Teatralnaya Square | 23. Konyushennaya Square |
| 8. Tavrichesky Palace | 16. St. Nicholas Cathedral | |

直接のきっかけ

☆Potsdam
☆Vienna
☆Cologne
☆St Petersburg
☆Bordeaux
☆Esphahan
☆Istanbul
☆Dresden
☆Riga
☆Vilnius
☆Sevilla
☆Avila, Graz
☆Liverpool
☆Tallinn

★Graz (Austria)

ピーター・クック：
クンストハウス・グラーツ



直接のきっかけ

- ☆Potsdam
- ☆Vienna 2017
- ☆Cologne
- ☆St Petersburg
- ☆Bordeaux
- ☆Esphahan
- ☆Istanbul
- ☆Dresden
- ☆Riga
- ☆Vilnius
- ☆Sevilla
- ☆Avila, Graz
- ☆Liverpool
- ☆Tallinn

- ☆Graz (Austria)
- ★London Tower



WHC 27th session (2003. 6-7) Decision: 27COM 7B. 108

ICOMOSに世界遺産歴史都市における高層構造物と現代建築：規制とマネジメントのための基準に関するシンポジウムを開くことを要請する



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture



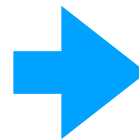
Centre du patrimoine mondial
World Heritage Centre

VIENNA MEMORANDUM on

**“World Heritage and Contemporary Architecture –
Managing the Historic Urban Landscape”**

PREAMBLE

1. Recalling that the Vienna Memorandum is the result of an international conference on the subject of “World Heritage and Contemporary Architecture”, which was requested by the World Heritage Committee at its 27th session (Paris, 30 June-5 July 2003, Decision 27COM 7B.108) and held from 12 to 14 May 2005 in Vienna, Austria, under the patronage of UNESCO and attended by more than 600 experts and professionals from 55 countries;
2. Bearing in mind the scope of UNESCO's *Convention concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage* (World Heritage Convention, 1972), and recalling its Articles 4 and 5, striving for global collaboration and the need for global discussions on the subject of the strong economic dynamic and recent structural changes in cities inscribed on UNESCO's World Heritage List;
3. Further recalling that sites are inscribed on the World Heritage List on the basis of the Statement of Outstanding Universal Value and that the preservation of this value should be at the centre of any conservation policy and management strategy;
4. Considering in particular the 1964 “International Charter for the Conservation and Restoration of Monuments and Sites” (Venice Charter), the 1968 “UNESCO Recommendation concerning the Preservation of Cultural Property endangered by Public or Private works”, the 1976 “UNESCO Recommendation concerning the Safeguarding and Contemporary Role of Historic Areas”, the 1982 ICOMOS-IFLA “International Charter for Historic Gardens” (Florence Charter), the 1987 ICOMOS “Charter for the Conservation of Historic Towns and Urban Areas” (Washington Charter), the 1994 Nara Document on Authenticity, as well as the HABITAT II Conference and Agenda 21, which was ratified by Member States in Istanbul (Turkey) in June 1996;
5. Desiring that the *Vienna Memorandum* be seen, within the continuum of these aforementioned documents and the current debate on the sustainable conservation of monuments and sites, as a key statement for an integrated approach linking contemporary architecture, sustainable urban development and landscape integrity based on existing historic patterns, building stock and context.



World Heritage

15 GA

Distribution limited

WHC-05/15.GA/7
Paris, 23 September 2005
Original : English/French

UNITED NATIONS EDUCATIONAL,
SCIENTIFIC AND CULTURAL ORGANIZATION

FIFTEENTH GENERAL ASSEMBLY OF STATES PARTIES
TO THE CONVENTION CONCERNING THE PROTECTION
OF THE WORLD CULTURAL AND NATURAL HERITAGE

Paris, UNESCO Headquarters, Room IV
10-11 October 2005

**Item 7 of the Provisional Agenda: Adoption of a Declaration on the Conservation of
Historic Urban Landscapes**

SUMMARY

The General Assembly is requested to adopt a Declaration on the Conservation of Historic Urban Landscapes (Decision **29 COM 5D**) based on the Vienna Memorandum on the Conservation of Historic Urban Landscapes (see Document *WHC-05/15.GA/INF.7*).

Draft Resolution: 15 GA 7: see Point II.

2005. 5.12-14

2005.9. 23

ウィーン・メモランダム

★2003年7月に世界遺産委員会が要請し、2005年5月にウィーンに専門家が集まって開催された「世界遺産と現代建築に関する国際会議」の結果

前文（1～5）

既存の歴史的パターン・建物のストックおよび文脈にもとづいて、現代建築・持続可能な都市開発およびランドスケープを一体のものとしてつなぐ統合的アプローチの鍵となる文書

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン（18～21）

都市開発のためのガイドライン（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこむ、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

➡ 2005 HULの保存に関する宣言

The 15th General Assembly of States Parties to the World Heritage Convention in October 2005で決定

定義（1/2）

★都市遺産の価値を再解釈する道具として提案された。都市保全の新しいアプローチと道具をアイデンティファイすることが必要になったことを反映

7. HULは、1976年の「歴史的地域の保護と現代の役割に関するユネスコ勧告」を発展させたもので、自然および生態学的文脈の中にある建物・構造物およびオープンスペースのグループのアンサンブルを指し、考古学および古生物学の遺跡を含み、一定期間にわたって都市的環境の中にある人々の居住地を構成し、そのまとまりと価値が、考古学的・建築的・先史時代・歴史的・科学的・美的・社会文化的または生態学的観点から認識されるものを言う。このようなHULは現代社会を形づくり、今日の私たちの生活を理解する上で大きな価値を有する。

8. HULには、場所に根ざした現在および過去の社会の表現と発達の結果が埋め込まれている。それは性格を規定する要素から構成されており、それら要素には以下が含まれる：土地利用とパターン、空間構成、視覚的關係、地形と土壌、植生、および小規模な構造物（縁石、舗装、排水溝など）の物体と詳細を含む技術的インフラのあらゆる要素。

9. 現代建築は、与えられた文脈では、あらゆる重要な計画されデザインされた歴史的環境への介入物のことを言うとして理解され、以下を含む：オープンスペース、新しい建築、歴史的建造物と敷地への追加または拡張、および改造。

定義（2/2）

★都市遺産の価値を再解釈する道具として提案された。都市保全の新しいアプローチと道具をアイデンティファイすることが必要になったことを反映

10. 特にこの10年文化遺産の概念は拡張し、人間の土地との共存および社会における人間への認識につながる幅広い解釈が含まれるようになり、領域という文脈の中で、都市の保存と開発に対する新しいアプローチと方法論が求められるようになった。国際的な憲章と勧告は、この展開をまだ十分に取り込んでいない。

11. ウィーン・メモランダムは、現代の開発が、歴史的な意義のある都市のランドスケープ全体に及ぼすインパクトへ焦点をあてる。これにより、HULの概念は、憲章や保護法でしばしば使われる「歴史的中心」、「アンサンブル」または「環境 surroundings」という伝統的な用語を超え、より広い領域とランドスケープの文脈を含むようになる。

12. HULが例外的で普遍的な意味を獲得するのは、計画的な開発からだけでなく漸進的な進化をとげてきた開発からである。そのような開発は、都市化のプロセスを通して一定期間にわたって、環境と地形の条件を組み込み、社会に関連する経済的および社会文化的価値を表現している。このように、HULの保護と保全の対象となるのは、保護台帳にある個々の記念物だけでなく、アンサンブルとそれらの、物理的・機能的および視覚的・物質的および連想的に、歴史的な類型および形態と重要なつながりをもつものである。。

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO G
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的又は私的の工事によって危険にさらされる文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

Paradigm
shift

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1962	ユネスコ勧告①		
1964	ヴェネツィア憲章		
1968	ユネスコ勧告②		
1972	世界遺産条約		
1972	ユネスコ勧告③		
1975	アムステルダム宣言		1976 HABITAT I
1975	建築遺産ヨーロッパ憲章		1987 ブルントラント報告
1976	ナイロビ勧告④	1979 豪バラ憲章 (89、91)	1989 ノールトヴェルク宣言
1985	ヨーロッパ建築遺産条約	1982 トラスカラ宣言	1992 Agenda 21 (リオ)
1987	ワシントン憲章	1987 伯イタイパバ憲章	1996 HABITAT II
1994	奈良ドキュメント	1994 オールボー憲章	1996 European Sustainable Cities: 3E
		2000 町並み憲章	1997 京都議定書 (COP3)
2005	ウーン・メモランダム	2005 西安宣言	
2010	HULに関する勧告⑤	2008 ケベック宣言	2015 SDGs, COP21 (パリ)
			2016 HABITAT III: New Urban Agenda
			2018 IPCC Special Report

paradigm
shift

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1960年代

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的または私的の工事によって危機に瀕した文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言.....	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章.....	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2010	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

風光の美と特性の保護に関する勧告

1962 Recommendation concerning the Safeguarding of the Beauty and Character of Landscapes and Sites

★自然の美しさだけでなく、人間がつくった風景、特に都市の風景の美しさを損なう危険性に、国際社会の注意を向けた

1. 定義

1. この勧告の目的に従い、風光の美と特性の保護とは、文化的又は美的意義を有するか、あるいは典型的な自然的環境を構成する、天然あるいは人工的な、農村及び都市の景観の保存、及びもし可能ならばその復旧措置を意味する
2. この勧告の規定は、自然保護のための措置をも補完する目的を有する

2. 一般的原則

3. 風光の美と特性の保護のために採用される研究と措置は、一国の全領域に適用されるべきであり、特定の風光地に限定されてはならない
4. 採用されるべき措置の選択に際しては、関係風光地の相対的意義について、しかるべき考慮をはらうべきである。これらの措置は、風光地の特性と規模と位置及びそれがさらされている危険の性質に従って変化する
5. 保護は、自然の風光地のみに限定さるべきでなく、人間の手により、その全部又は一部が構成されている場合にも適用されるべきである。特に建物の建造及び土地の投機により、一般的に最も脅威にさらされている都市風光地urban landscapes and sitesの保護を確保するために特別の規定がなされなければならない。特別な保護は歴史的記念物に対する接近にも調和すべきである。記念物を保存するために、建物に新しい用途を見いだすことの重要性と、周囲との歴史的関連性を重視する。

*訳はタイトルを含め文部科学省のサイトから。Landscapes and Sitesを「風光」「風光地」と訳している

ヴェネチア憲章

1964 International Charter for the Conservation and Restoration of Monuments and Sites

★20世紀前半の保存に関する長い議論の頂点。歴史的建造物とともにその環境 setting を保存すること、それらの物理的構造の変化からオーセンティシティを守る必要性に焦点をあてた

1. 歴史的記念物の概念

歴史的建造物の概念には、単一の建築作品だけでなく、特定の文明、重要な発展、または歴史的な出来事の証拠が見出される都市または田園の環境 the urban or rural setting も含まれる。これには、偉大な芸術作品だけでなく、時間の経過とともに文化的重要性を獲得した過去のより控えめな作品にも当てはまる

2. 保存の概念

記念物を保存するために、建物に新しい用途を見いだすことの重要性と、周囲との歴史的関連性を重視する

3. 復原について

復原は推測がはじまるところでとめられなければならない、また記念物が経てきた歴史的変化を尊重した復原がなされなければならない

4. 発掘について

発掘は専門家の手によって行われるべきであって、遺跡を改変してはならない

5. 公表について

記念物に対する調査、発掘、復原等の活動は、記録され報告されなければならない

＊記念物の「Setting」という以外は、歴史都市に言及していない。歴史都市が直面している問題への認識が欠如していたというより、起草者が修復や美術史家で、都市保全の専門家ではなかったため

公的又は私的の工事によって危険にさらされる文化財の保存に関する勧告

1968 Recommendation concerning the Preservation of Cultural Property Endangered by Public or Private Works

★資産の適切な保存に必要な管理上および財政上の措置を詳細にわたり勧告

24 重要な考古学的遺跡（特に、識別することが困難な先史遺跡）、都市又は農村地域にある歴史地区、伝統的構造物群、旧時代の諸文化に属する民族学的構造物その他の不動産文化財であって公的又は私的の工事のために危険にさらされるおそれのあるものは、次のように、地域設定又は指定の方法によって保護すべきである。

a 考古学的遺跡については、そこに所在する廃墟を徹底的に発掘調査し又は保存することができるように、保護地域を設定し又は指定を行ない、及び、必要な場合には、当該不動産文化財を買い取るべきである。

b 都市又は農村の中心部にある歴史地区及び伝統的構造物群については、保護地域を設定し、並びに当該文化財の環境及び特性を保存するために適切な規則（歴史的又は芸術的に重要な構造物を改変することができる程度についての規制、当該地区に建てることのできる新構造物の様式及び設計についての規制等）を採択すべきである。記念物を保存することは、特に、歴史的都市又は地域においては、都市の再開発についての適切な計画をたてる場合の必須要件のひとつとすべきである。また、指定された記念物又は遺跡の周辺地域及びその環境も、当該地域の関連性及び特性を保存するため、類似の規則の対象とすべきである。新規の建築に適用される通常の規則に対して妥当な修正を考慮すべきであり、新構造物が歴史地区に建てられる場合には、その通常の規則の適用は、停止すべきである。ポスター及びイルミネーションによる普通の様式の商業広告は、禁止すべきである。ただし、商業施設が賢明な方法で行なう標識によってその存在を表示することは、許容することができる。

*訳はタイトルを含め文部科学省のサイトから

都市保全に関する主要な勧告・憲章

世界遺産条例前後

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的または私的の工事によって危機に瀕した文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言.....	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章.....	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

世界遺産条約

1972 the Convention concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage

★歴史都市に直接の言及はなく「Groups of Buildings」というカテゴリーの一部として定義。Operational Guidelinesに3類型：a) もう人の住んでいない都市、b) 人が住んでいる都市、c) 20世紀のニュータウン

1972 World Heritage Convention's Operational Guidelines, Annex 3, paragraph 14

ii) 今も人が住んでいる都市

- a) 特定の時代や文化に典型的で、ほぼ完全に保存されており、その後の開発による影響をほとんど受けていない町。登録される遺産は、町全体とその周辺であり、すべてが保護される必要がある。
- b) 特徴的なラインに沿って発展し、時にはすぐれた自然環境の中にあり、歴史の連続する段階に典型的な空間配置と構造を保存してきた町。明確に定義された歴史的部分が現代の環境よりも優先される。
- c) 古代の町とまったく同じエリアをカバーし、現在は近代的な都市に囲まれている歴史的な中心部。歴史的に見て最も広い範囲で遺産の正確な境界を定め、隣接する周囲に適切な措置をとる必要がある。
- d) 生きのびてきた残りの状態であっても、消えた歴史的な町の特徴をあますことなく伝える、セクター、エリア、または孤立したユニット。生き残った地域や建物は、以前の全体の十分な証言者であるべきである。

＊世界遺産条約は、都市遺産の定義と管理における方法論的アプローチの発展に寄与したが、都市保全の分野で大きな概念革新をもたらしたわけではなかった

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1970年代、ヨーロッパ建築年＋オイルショック＝保存ブーム

1974：町並み保存連盟発足

1975：伝建地区制度

1978：第一回全国町並みゼミ

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的または私的の工事によって危機に瀕した文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言.....	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章.....	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

アムステルダム宣言

The Declaration of Amsterdam issued by the Congress on the Architectural Heritage (21 to 25 October 1975)

★①保存と都市計画のリンクを構築する、②ヴァナキュラーな町並みを町づくりのキーコンポーネントに、③社会構造を守ることを保存の1プロセスとする、④都市遺産は、教育と社会開発のインスピレーションの源となる文化「資本」である、⑤現代建築の、歴史的エリアにおける役割を重視

- a. 建築遺産は、人々に共通の歴史と共通の未来という意識を与える。したがって、その保存は非常に重要な問題である
- b. 建築遺産は、建物とその周辺だけでなく、町や村のすべてのエリアを含む
- c. これらの宝物はヨーロッパのすべての人々の共同所有物であり、人々はそれらを保護する共同責任を負う
- d. 建物の保存は、都市農村計画の境界的な問題ではなく、主要な目的として考慮されなければならない
- e. 地方自治体は、建築遺産の保護に対して特別な責任を負っており、アイデアや情報の交換によって互いに助け合う必要がある
- f. 古いエリアの修復は、可能な限り、住民の社会的構成に大きな変化を必要としないように考え実行され、社会のすべてのセクションが、公的資金によってなされた保存の利益を共有するべきである
- g. 必要な立法上および行政上の措置が、すべての国で強化され、より大きな効果をもたらすべきである
- h. 建物や建築的または歴史的関心のある地域の修復、改作、維持費を賄うために、地方自治体は適切な財政支援を利用でき、民間所有者も同様に財政支援と財政救済を利用できるようにする必要がある
- i. 建築遺産は、一般の人々、特に若い世代に認められなければ存続できない。したがって、すべての年齢の教育プログラムが、ますますこの主題に注意を向けるべきである
- j. 公益を目覚めさせるのに役立つ、国際的、国内的、地域的な独立した組織が支援されるべきである
- k. 今日の新しい建物が明日の遺産となるため、現代建築が高品質であることを保証するためにあらゆる努力を払う必要がある

建築遺産についてのヨーロッパ憲章

The European Charter of the Architectural Heritage (EU, Oct. 1975)

★①保存と都市計画のリンクを構築する、②ヴァナキュラーな町並みを町づくりのキーコンポーネントに、③社会構造を守ることを保存の1プロセスとする、④都市遺産は、教育と社会開発のインスピレーションの源となる文化「資本」である、⑤現代建築の、歴史的エリアにおける役割を重視

1. ヨーロッパの建築遺産は、私たちの最も重要なモニュメントだけから成り立っているのではない。そこには、私たちの古い町にある小さな建物のグループや、自然または人工の環境にある特徴的な村も含まれている
2. 建築遺産に具現化された過去は、バランスの取れた完全な生活に欠かせない環境を提供する
3. 建築遺産は、かけがえのない精神的、文化的、社会的、経済的価値をもった資本である
4. 歴史的な中心部と遺跡の構造は、調和のとれた社会的バランスに貢献する
5. 建築遺産は、教育において重要な役割を果たす
6. この遺産は危険にさらされている
7. 統合された保全が、これらの危険を回避する
8. 統合された保全は、法的、行政的、財政的および技術的支援に依存する

ヨーロッパ建築遺産保護条約

The Convention for the Protection of the Architectural Heritage of Europe (Granada in 1985)

★①保存と都市計画のリンクを構築する、②ヴァナキュラーな町並みを町づくりのキーコンポーネントに、③社会構造を守ることを保存の1プロセスとする、④都市遺産を、教育と社会開発のインスピレーションの源となる文化「資本」と捉える、⑤現代建築の、歴史的エリアにおける役割を重視

Article 10:

各締約国は、以下の統合された保全政策を採用することを約束する；

1. 建築遺産の保護を重要な都市農村計画の目標として含め、開発計画の作成と作業の承認手順の両方のすべての段階でこの要件が考慮されるようにする；
2. 建築遺産の修復と維持のためのプログラムを促進する；
3. 建築遺産の保存・促進・強化を文化・環境・計画政策の主要な特徴にする；
4. 都市農村計画プロセスにおいて可能な限り、その本質的な重要性がこの条約の第3条第1項の意味の範囲内での保護を保証するものでなくとも、都市または農村環境におけるそれらの背景setting、およびと生活の質の観点から興味のある建物の保存と活用を促進する；
5. 建築遺産の将来に不可欠なものとして、伝統的な技能と材料の応用と開発を促進する

都市保全に関する主要な勧告・憲章

20世紀最後の四半世紀

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公的または私的の工事によって危機に瀕した文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言.....	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章.....	EU
1976	歴史的地区の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2011	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

ナイロビ勧告（1/2）

歴史的地区の保全および現代的役割に関する勧告（ユネスコ勧告④）

Recommendation concerning the Safeguarding and Contemporary Role of Historic Area (Nairobi, 1976)

★実務家と政府が従うべき基準と政策を詳細に示し、その後の歴史遺産保存の指針となった

★「歴史的および建築的（ヴァナキュラーを含む）地区」の定義：

ウィーン・メモランダム
によるHULの定義のもと

1a 「歴史的および建築的（ヴァナキュラーを含む）地区」は、都市または農村環境における人間の居住地を構成する、考古学および古生物学時代の遺跡を含む、建物・構造物およびオープンスペースのグループを意味し、その一体性と価値が、考古学・建築的・先史時代・歴史的・美的または社会文化的観点から認められるもの。

性質が非常に多様であるこれらの「地区」の中で、特に次のものを他と区別することができる：先史時代の遺跡、歴史的な町、古い市街地、村と集落、そして均質な記念碑的なグループ、後者は原則として変えることなく慎重に保存すべきであると理解される。

ナイロビ勧告（2/2）

歴史的地区の保全および現代的役割に関する勧告

The Recommendation concerning the Safeguarding and Contemporary Role of Historic Area (Nairobi, 1976)

★以下のガイドラインを確立：

- 歴史的地区は、現代生活における過去の生きた証であり、時間と空間における人間社会の文化的多様性を表現しており、個人と社会のアイデンティティの強力な要素である
- 歴史的地区とその周辺を、全体的かつ首尾一貫した全体として考える必要性。その保護と保全はみんなの義務であり、公共政策と特別な法の対象とする
- 歴史的地区の背景 Settings の特徴を維持し、都市の文脈に新たな介入をおこなっていく
- 歴史的地区の伝統的な社会構造と機能を維持するために、文化および社会の活性化を、物理的保全に関連付ける
- 土地利用管理、建築規制、保全計画、交通管理スキーム、汚染防止、適切な資金調達と補助金のメカニズム、参加型の枠組み、一般の認識と教育活動など、歴史的エリアの保全のための適切な対策を開発し、実施する

★その後の歴史遺産保存の重要な指針となったが、当時の世相を反映し、公的計画のパワーや公共の財政支出に楽観的で、社会的経済的手段への言及が乏しかった。ジェントリフィケーションや観光圧力を過小評価していた。

ワシントン憲章

歴史的都市および地区保存憲章

The Charter for the Conservation of Historic Towns and Urban Areas (1978.10, Washington DC.)

★もっぱら都市域とその保全を対象にしたはじめての国際憲章

原則と目的

2. 保存すべき特質には、町や都市地区の歴史的な特徴およびこの特徴をあらわす物質的および精神的な要素のすべてが含まれる。特に、

- a) 敷地割や道路によってかたちづくられる都市的なパターン
- b) 建物や緑地と空地との関係
- c) 規模・大きさ・様式・構法・建築材料・色・装飾によって規定される建物の内外の形式上の見かけ
- d) 町や都市街区と、自然のものと人工的なもの両方を含む周囲の環境との関係
- e) 年代をかけて町や都市街区に蓄積された数々の機能があげられる。

これらの特質の存続を脅かすようないかなる事柄も、歴史的な町や都市街区のオーセンティシティを傷つけることになる。

方法と手段として、調査と保存計画をあげる

★都市遺産urban heritageの定義に新機軸をもたらした。周辺環境とあわせてとらえる必要がある（d）、社会的な価値と参加に注意を払う（e）

オーセンティシティに関する奈良ドキュメント

The 1994 Nara Document on Authenticity

★ヴェネツィア憲章の拡張／過度のヨーロッパ中心からの脱却／無形文化財の役割

前文（1～5）、文化の多様性と遺産の多様性（5～8）

価値とオーセンティシティ（9～13）

13. 文化遺産の性質、その文化的背景、および時間の経過に伴うその進化に応じて、オーセンティシティの判断は、多種多様な情報源の価値に関連することになるだろう。その情報源の側面には、形態と意匠、材料と材質、用途と機能、伝統と技術、立地と環境、精神と感性、その他の内的および外的要因が含まれるであろう。これらの情報源を使用することで、調査対象の文化遺産の特定の芸術的、歴史的、社会的、科学的側面を詳しく説明することができる。

★遺産を文化の多様性の表現として定義、保存の実践を各文化ごとの遺産に属する価値と結び付ける。ヴェネツィア憲章で定義されているオーセンティシティの概念は、それぞれの文化圏に由来する基準に関連して理解される

1992 世界遺産のカテゴリーに「文化景観」を導入

2001 the UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity

2003 the Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage

2004 Yamato Declaration on Integrated Approaches for Safe-guarding Tangible and Intangible Cultural Heritage

2005 the UNESCO Convention on the Protection and Promotion of the Diversity of Cultural Expressions

都市保全に関する主要な勧告・憲章

1962	風光の美と特性の保護に関する勧告	UNESCO C
1964	記念碑と遺跡の保存と復元に関する国際憲章（ヴェネツィア憲章）	ICOMOS G
1968	公共または民間の事業によって危機に瀕した文化財の保存に関する勧告	UNESCO G
1972	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）	UNESCO G
1972	文化遺産及び自然遺産の国内的保護に関する勧告	UNESCO G
1975	アムステルダム宣言.....	ヨーロッパ建築遺産会議
1975	建築遺産についてのヨーロッパ憲章.....	EU
1976	歴史的地域の保護と現代的役割に関する勧告（ナイロビ勧告）	UNESCO G
1985	ヨーロッパ建築遺産保存条約	EU
1987	歴史的都市と都市エリアの保全に関する憲章（ワシントン憲章）	ICOMOS G
1994	オーセンティシティに関する奈良ドキュメント	ICOMOS M
2005	世界遺産と現代建築に関するウィーン・メモランダム	ICOMOS M
2010	HULに関する勧告（11.10）	UNESCO G

paradigm
shift

ウィーン・メモランダム

HULの定義（再掲）

7. HULは、1976年の「歴史的地域の保護と現代の役割に関するユネスコ勧告」を発展させたもので、自然および生態学的文脈の中にある建物・構造物およびオープンスペースのグループのアンサンブルを指し、考古学および古生物学の遺跡を含み、一定期間にわたって都市的環境の中にある人々の居住地を構成し、そのまとまりと価値が、考古学的・建築的・先史時代・歴史的・科学的・美的・社会文化的または生態学的観点から認識されるものを言う。このようなHULは現代社会を形づくり、今日の私たちの生活を理解する上で大きな価値を有する。

8. HULには、場所に根ざした現在および過去の社会の表現と発達の結果が埋め込まれている。それは性格を規定する要素から構成されており、それら要素には以下が含まれる：土地利用とパターン、空間構成、視覚的關係、地形と土壌、植生、および小規模な構造物（縁石、舗装、排水溝など）の物体と詳細を含む技術的インフラのあらゆる要素。

9. 現代建築の定義、10. 文化遺産の概念の拡張→新しいアプローチと方法論が必要

11. ウィーン・メモランダムは、現代の開発が、歴史的な意義のある都市のランドスケープ全体に及ぼすインパクトへ焦点をあてる。これにより、HULの概念は、憲章や保護法でしばしば使われる「歴史的中心」、「アンサンブル」または「環境 surroundings」という伝統的な用語を超え、より広い領域とランドスケープの文脈を含むようになる。

ウィーンメモランダムによる HULの定義のねらい

- 歴史的都市エリアを、モニュメントと都市織物の「合計」ではなく、その背景 settings や環境 environment との歴史的・地質学的・社会的関係によって特定され、意味と表現の複雑な層によって特徴付けられる包括的なシステムとして定義することにより、伝統的なアプローチの限界に対処する
- 歴史的都市エリアを、現在も進行中の長期的なダイナミクスの結果と捉え、変化（社会的、経済的、物理的）を、単なる新旧の違いとしてではなく、管理および理解する変数とみなす
- HULを物理的形態と社会的進化をつなぐものとして強調することで、歴史的都市を、歴史を通じた表現の階層を表す歴史的連続体の中に、自然と人工の要素を統合するシステムとして定義する
- HULは、文化的表現の多様性の価値を認識すること、価値観と都市形態の変化と適応の要因としての社会的経済的ダイナミクスを前向きに解釈することに基礎を置く

ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

Development of the HUL Concept



ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

Develop

20

The V
Memorandum

<http://whc.unesco.org/>

Declarat
Conservatio
Urban L

<http://whc.unesco.org/>

The Xi' An I
the Conser
setting of heri
sites and ar

<http://www.icomos.org/>

遺産とHULの保全をめぐる円卓会議

Round Table organized by the Canada Research Chair on Built Heritage, Faculty of Environmental Design, University of Montreal 9 March 2006

議長 (Christiana Cameron) 総括

...

「HUL」という表現については、この用語の使用の妥当性と適切性についてコンセンサスは得られませんでした。その定義は、都市研究の専門家が現在使用している従来の用語とは異なっています。「HUL」という用語と「文化的景観 cultural landscape」「都市アンサンブル urban ensemble」「遺産景観 heritage landscape」など、他の世界遺産の定義との関係に混乱が生じています。多くの参加者は、ウィーン・メモランダムで提案された定義のランドスケープという要素は、文書に不可欠で統合された要素としてではなく、後付けとして挿入されたように見えるという見方を表明しました。

...

ウィーン・メモランダムは暫定的な文書です。ほとんどの部分は、科学的に観察・測定される建物や固定された物体の世界に根ざしたままですが、人間生態学というビジョンを暗示しています。持続可能な開発と都市空間のより広い概念へ向かう変化の前兆を示しています。今後の道は「ランドスケープ」という概念を通して開けてきます。それは、ほとんどの保存専門家に馴染みのあるデザインされたランドスケープではなく、連想による associative ランドスケープ、つまりジュリアン・スミスが呼んだ「想像のランドスケープ landscape of imagination」です。

ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

Development of the

2005

2005.5

The Vienna
Memorandum

<http://whc.unesco.org/en/documents/5965>

2005.9

Declaration on the
Conservation of Historic
Urban Landscapes

<http://whc.unesco.org/document/6812>

2005.10

The Xi' An Declaration on
the Conservation of the
setting of heritage structures,
sites and areas (ICOMOS)

<http://www.icomos.org/charters/xian-declaration.pdf>

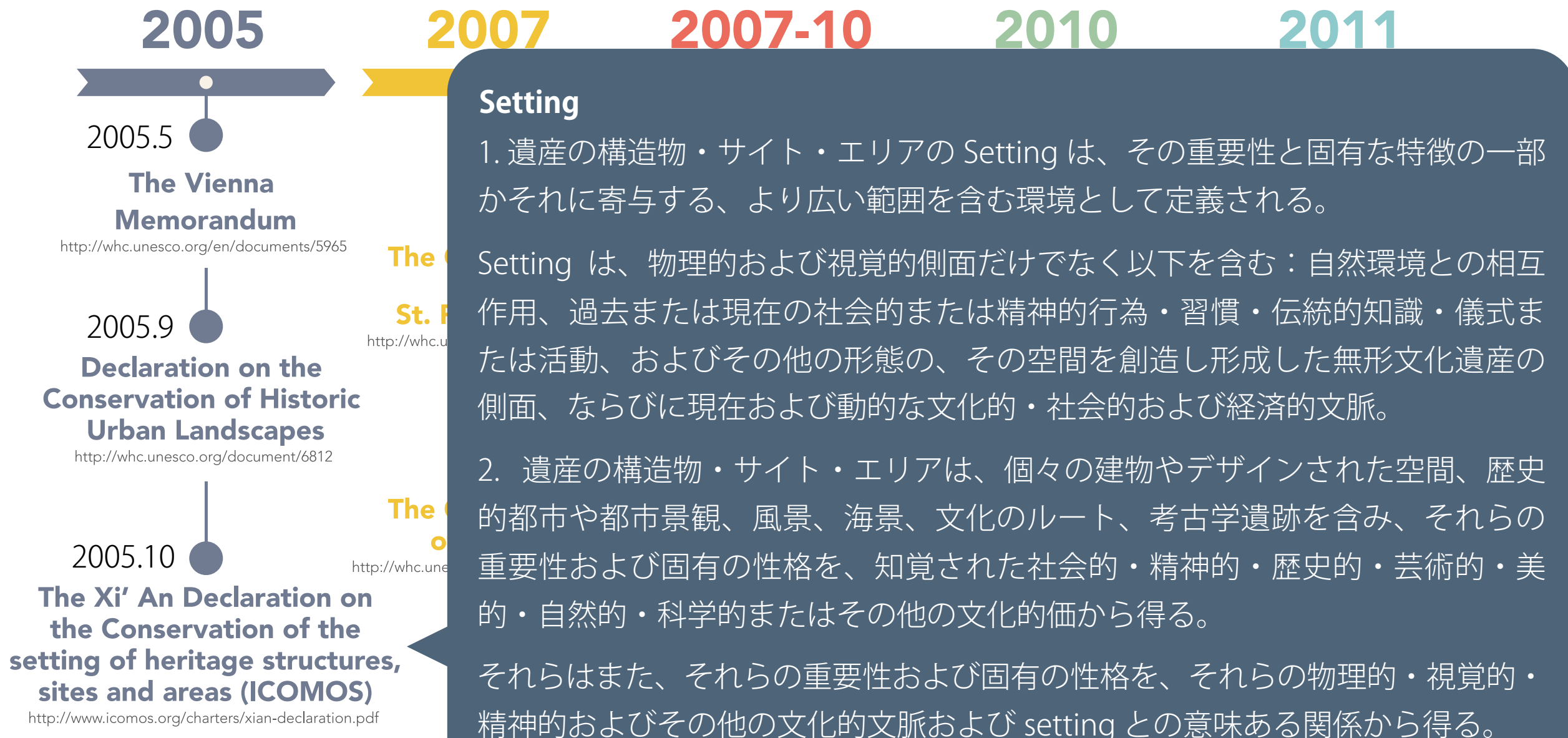
WHC: ウィーン・メモランダムで表明された原則を決定 (2005.9)

1. 機能的な利用・社会構造・政治的文脈および経済発展における継続的な変化は、継承されたHULへの構造的介入という形で姿を現わし、都市の伝統の一部として認識される。意思決定者側に、前向きな行動を伴う都市全体のビジョン、そしてその他のアクターや利害関係者との対話が求められる。(WM 13)
2. HULにおける現代建築の中心的な課題は、一方で社会経済の変化や成長を促進しつつ、同時に継承された都市景観およびそのランドスケープ環境を尊重しつつ、開発の力に応えることである。生きている歴史的都市、特に世界遺産都市は、保全をキーポイントとする都市計画とマネジメントという方針を必要としている。このプロセスにおいて、歴史都市のオーセンティシティ（真正性）とインテグリティ（完全性）は、さまざまな要因によって決定されるとしても、決して妥協があってはならない (WM 14)
3. 物理的および機能的な介入を行うにあたって中心的に関心を寄せるべきは、生活、仕事およびレクリエーションの条件を改善し、歴史的な都市の構造と形態の特性と重要性から派生する既存の価値を損なうことない使い方を適応することにより、生活の質と生産効率を高めることである。これが意味することは、技術基準を改善するだけでなく、適切なインベントリとその価値の評価に基づいて歴史的環境を修復し現代的な開発を行うこと、ならびに高品質の文化的表現を加えることである (WM 17)

ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

Development of the HUL Concept



ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

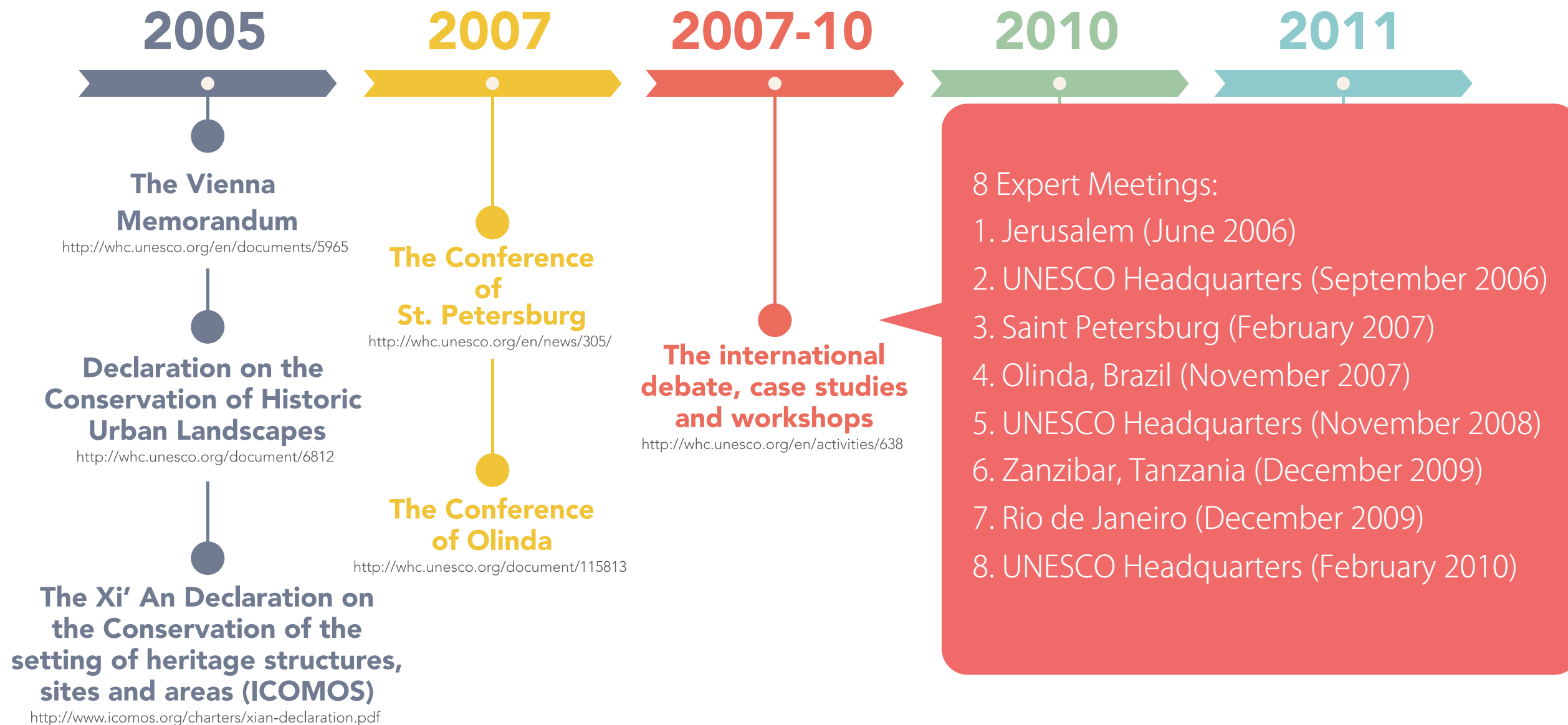
Development of the HUL Concept



ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

Development of the HUL Concept



ウィーン・メモランダム

★公表されるとたちまち関係者の議論

Development of the HUL Concept



到達した合意

OLINDA REPORT of the Regional Conference "Historic Urban Landscape in the Americas" Olinda, Brazil, 12 to 14 November 2007

1. 歴史的都市エリアのこれまで受け入れられてきた境界を超えて保全を拡大するための幅広い構成概念として「ランドスケープ」を考える；
2. 都市を、意味が重なった層として認識する；
3. アイデンティティの複数の側面の受け入れる。そうすることがコミュニティを強化できる場所において、そしてgenius lociを表現する方法として；
4. 都市文化の無形の側面を統合することが重要；
5. 変化は都市開発と保全の本質的な部分であり、それゆえに継続性と首尾一貫した置換 coherent substitutionを必要とする歴史的エリアにおいては、保全は進化をマネジメントすることと一体であると認識する；
6. 保全と開発の過程では、環境・経済・社会・文化の持続可能性を考慮することが必要である。それは都市化と公平性の達成に不可欠な目標である；
7. 市民・コミュニティ・専門家・政府を問わず、教育イニシアチブの支援を受けつつ、すべての利害関係者が参加し関与することが、都市保全を有意義で成功させるために不可欠である；
8. 文化システムを形成する価値観と課題の範囲に対処するために、学際的な協力が必要である。

ウィーン・メモランダムから勧告へ

★公表されるとたちまち関係者の議論の的に

勧告草案についての予備報告

Preliminary Report on the Draft Recommendation on the Historic Urban Landscape, 2010.8.23

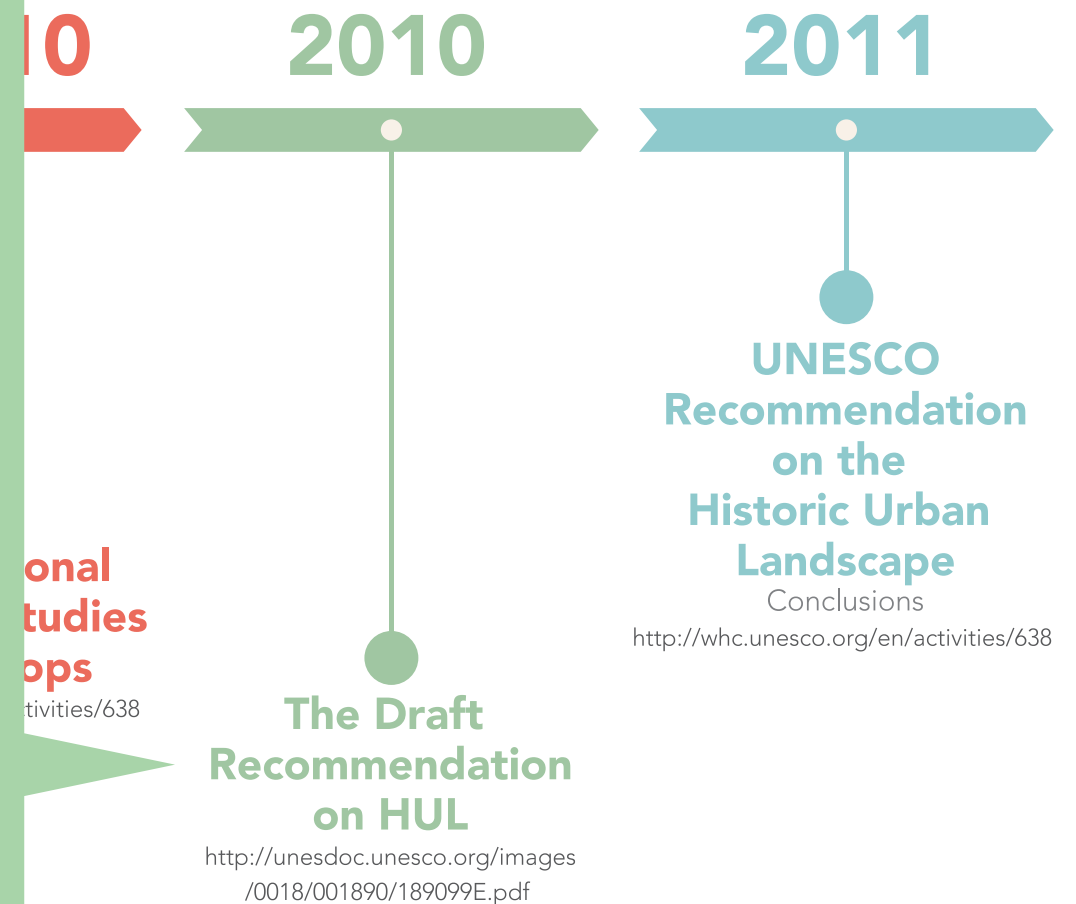
◎ 課題

- 場所の感覚とコミュニティのアイデンティティを脅かす急速な都市化
- 制御されない、貧弱な発想 and/or ひどい出来の都市開発
- 変化の激しさとスピード、地球温暖化を含む
- 資源の持続不可能な浪費

◎ 論点

- 都市遺産の価値と意味のシステム：「モニュメント」から「社会的複合体」「生きた遺産」へ
- HULの定義：「歴史的中心」「アンサンブル」を超え、より広い都市の文脈と地理的背景 Setting を含むように
- 変化のマネジメント
- 持続可能な社会・経済開発
- 都市保全手法のアップデート

- ◎ この新たな基準を設定する施策は、世界遺産都市限定ではなく、すべての歴史都市向けに拡大される



ウィーン

★公表されるとたち

Development of

2005

The Vienna
Memorandum

<http://whc.unesco.org/en/documents/5965>

Declaration on the
Conservation of Historic
Urban Landscapes

<http://whc.unesco.org/document/6812>

The Xi' An Declaration on
the Conservation of the
setting of heritage structures
sites and areas (ICOMOS)

<http://www.icomos.org/charters/xian-declaration>



RECOMMENDATION ON THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

Paris, 10 November 2011

告へ

2011

UNESCO
Recommendation
on the
Historic Urban
Landscape

Conclusions

<http://whc.unesco.org/en/activities/638>

★ウィーン・メモランダム

7, HULは、1976年の「歴史的地域の保護と現代の役割に関するユネスコ勧告」を発展させたもので、自然および生態学的文脈にある、建物・構造物およびオープンスペースのグループのアンサンブルを指し、考古学および古生物学の遺跡を含み、一定の期間にわたって都市的環境の中に人々の居住地を構成し、そのまとまりと価値は、考古学的・建築的・先史時代・歴史的・科学的・美的・社会文化的または生態学的観点から認識される。こうしてHULは現代社会を形成し、今日の私たちの生活を理解する上で大きな価値を有する。

8, HULには、場所に根ざした現在および過去の社会の表現と発達の結果が埋め込まれている。それは性格を規定する要素から構成されており、それら要素には以下が含まれる：土地利用とパターン、空間構成、視覚的關係、地形と土壌、植生、および小規模な構造物（縁石、舗装、排水溝など）の物体と詳細を含む技術的インフラのあらゆる要素。

★勧告

8. HULは、文化的および自然的な価値と属性が歴史的に積み重なった結果として理解される都市エリアであり、「歴史的な中心」または「アンサンブル」の概念を超えて広がる、**より広い都市の文脈**とその地理的環境を含む。

9. この**より広い文脈**には特に以下を含む：

- サイトの地誌、地形学、水文学および自然の特徴
- 歴史的および現代の人工的環境；
- 地上と地下のインフラストラクチャ；
- そのオープンスペースと庭園；
- その土地利用パターンと空間構成；
- 知覚的および視覚的關係；
- 都市構造のすべてのその他の要素。

さらに、以下を含む：社会的および文化的慣習と価値、経済プロセス、および多様性とアイデンティティに関わる歴史遺産の無形の側面。

Layers of the city

The historic urban landscape is the result of the layering and intertwining of cultural and natural values over time. Beyond the notion of 'historic centre,' it includes the broader urban context and its geographical setting.

CULTURAL PRACTICES

URBAN STRUCTURE

ECONOMIC PROCESSES

BUILT ENVIRONMENT

TOPOGRAPHY

INFRASTRUCTURES

DIVERSITY AND IDENTITY

OPEN SPACES

SOCIAL VALUES

How can a city become a stable ecosystem?

How can future generations be engaged in maintaining the continuation of urban life?

How can action and planning law work together in order to achieve climate-resilience for cities?

GEOMORPHOLOGY

Can urban conservation serve the needs of local communities, including the poor and the marginalized?

HYDROLOGY

Can we sustain and enhance the identity of cities as a way to brand them?

Which new financial tools are needed for the management of the historic urban landscape?

How can urban conservation promote new forms of productivity and socio-economic development?

Millennium Bridge London (United Kingdom). Photograph by Duncan.

HULアプローチ

10. この定義は、持続可能な発展全体のフレームワークの中での、HULの特定・評価・保全・および管理のための、包括的かつ統合された**アプローチ**の基礎を定める。

11. HULアプローチは、人間環境の質を維持し、都市空間の生産的で持続可能な利用を強化しながら、その動的な特徴を認識し、社会的および機能的な多様性を促進することを目的とする。

それは、都市遺産保護の目標と社会的および経済的発展の目標を統合する。

それは、都市と自然環境の間、現在と将来の世代のニーズと過去からの遺産の間の、バランスの取れた持続可能な関係に根ざす。

12. HULアプローチは、文化的多様性と創造性を人間・社会・経済の発展の重要な資産と見なし、物理的および社会的変化を管理し、現代の介入が、歴史的環境の遺産と調和的に統合され、地域的文脈を考慮に入れることを確実にするためのツールを提供する。

13. HULアプローチは、国内および国際社会の価値を尊重しながら、地域コミュニティの伝統と認識から学ぶ。



Tram in Istanbul (Turkey). Photograph by Scott Dexter.

Towards a new balance

The historic urban landscape approach sees and interprets the city as a continuum in time and space. Countless population groups have left their mark, and continue to do so today.

As an approach, it considers cultural diversity and creativity as key assets for human, social and economic development. It is an alternative method to cutting the city up through 'zoning' into separate conservation areas, which thereby become ghettos of historic preservation. To these ends, UNESCO works with cities to support the integration of environmental, social and cultural concerns into the planning, design and implementation of urban development.

In many cities this approach has had very positive and encouraging results. For each local situation a balance is reached between preservation and protection of urban heritage, economic development, functionality and livability of a city. Thus the needs of current inhabitants are responded to while sustainably enhancing the city's natural and cultural resources for future generations.

The different approaches – heritage, economic, environmental and sociocultural – do not conflict; they are complementary and their long-term success is dependent on them being linked together.

★ウィーン・メモランダム

前文（1～5）

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン
（18～21）

都市開発のためのガイドライン
（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこ
む、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

★勧告

前文

✓ 序（1～7）

✓ I. 定義（8～13）

II. HULへの挑戦と機会（14～20）

都市化とグローバリゼーション（17）、開発
（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

III. 方針（21～23）

IV. ツール（手段）（24）

a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システ
ム、d) 資金調達ツール

V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニ
ケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

付録（用語）

II HULへの挑戦と機会

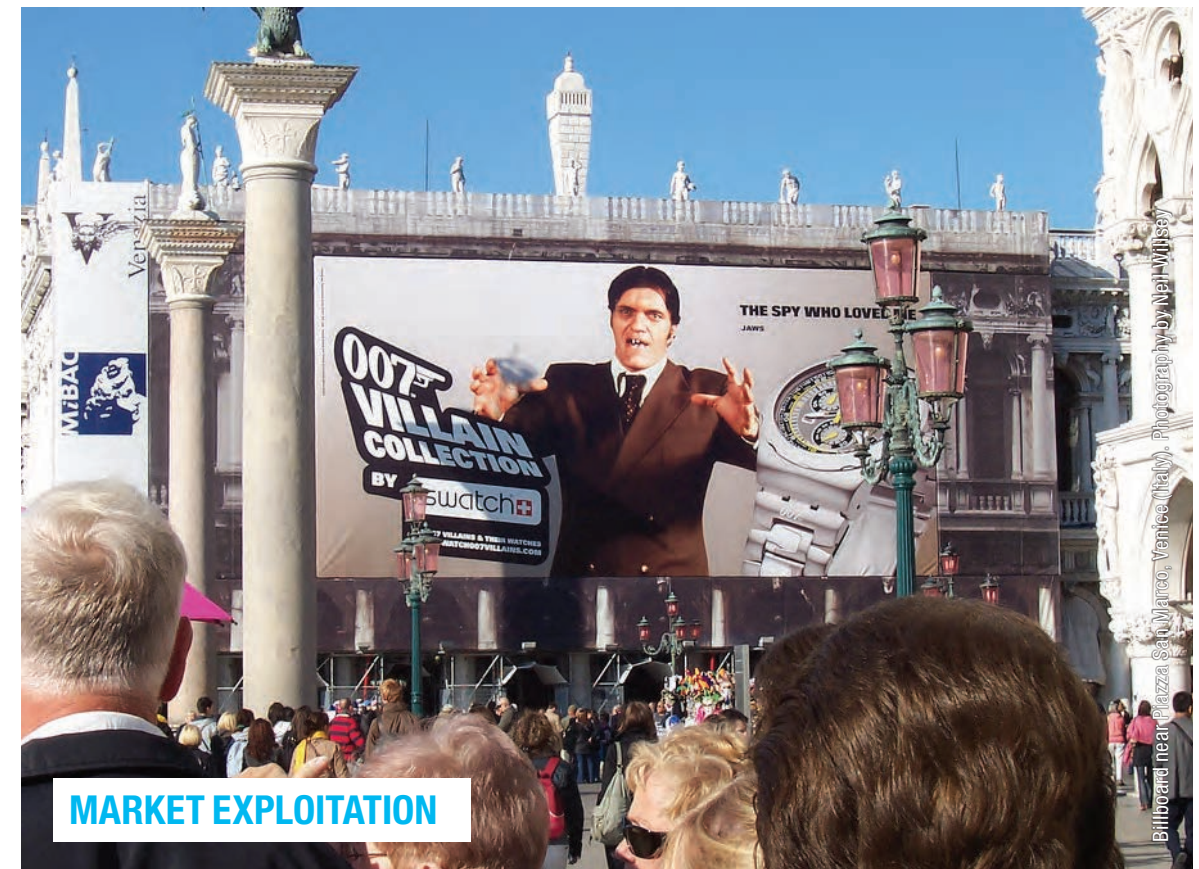
CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FOR THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

★なぜHULアプローチが必要になったか？ 既存の勧告は成果を上げてきたが、それだけでは対処できないプレッシャーにさらされるようになったからだ。

14. 既存のユネスコの勧告は、現代社会において歴史的地域が重要な役割を果たしているという認識を示してきた。それらはまた、歴史的地域の保全へのいくつかの特定の脅威を特定し、そのような課題に対処するための一般的な原則・方針およびガイドラインを提供してきた。

15. HULアプローチは、都市遺産保護の規律と実践がこの数十年で大幅に進化し、政策立案者と管理者が新しい課題と機会により効果的に対処できるようになったという事実を反映している。HULアプローチは、コミュニティが、その歴史・集合的記憶・環境にリンクされた特性と価値を維持しつつ、開発と適応を追求することを支援する。

16. 過去数十年間、世界の都市人口の急激な増加、開発の規模と速度および変化する経済のおかげで、都市とその歴史的地域は、世界の多くの地域における経済成長の中心と推進力となってきた。そして文化的・社会的な生活の中で新しい役割を果たしてきた。その結果、それらはまた、以下を含む、多くの新しいプレッシャーにさらされている。



II HULへの挑戦と機会

CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FOR THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

都市化とグローバル化

★都市化とグローバル化によって生ずる問題を、HULに基づく適切な管理で緩和する

17. 都市の成長は、多くの歴史的な都市エリアの本質を変えつつある。グローバル化は、コミュニティが都市エリアとその環境に帰する価値、および住民とユーザーの認識と現実に深い影響を与えている。

都市化は、経済的・社会的および文化的な機会を提供することで、生活の質と都市エリアの伝統的な特徴を向上させることができる。

しかし、都市の密度と成長がマネジメントを欠いたまま変化すると、場所の感覚・都市構造の完全性・コミュニティのアイデンティティを損なう。一部の歴史的な都市エリアは、機能性・伝統的な役割および人口を失いつつある。HULは、そのような影響の管理と緩和に役立つ。

II HULへの挑戦と機会

CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FOR THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

開発

★HULに基づく適切な管理で、開発の力が良い結果をもたらすようにする

18. 多くの経済プロセスは、都市の貧困を緩和し、社会的発展と人間開発を促進する方法と手段を提供している。情報技術や持続可能な計画、設計と建設の実践などのイノベーションの利用可能性が高まると、都市エリアが改善され、生活の質が向上する。

HULアプローチを通じて適切に管理された場合、サービスや観光などの新しい機能が重要な経済的取り組みとなり、コミュニティの幸せに貢献し、経済的および社会的多様性と居住機能を確保しながら、歴史的都市地域とその文化遺産の保全に貢献することができる。

これらの機会を捉えることができなければ、持続可能でない生存不能な都市がもたらされる。不十分で不適切な方法でそれらを実行すると、歴史遺産という資産が破壊され、将来の世代にとってかけがえのない損失が発生する。

II HULへの挑戦と機会

CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FOR THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

環境

★環境問題へ対処するため求められる新しい都市生活モデルは、自然および文化遺産を統合することになる

19. 人間の居住地は、災害によるものを含め、気候変動や環境変動に常に適応してきた。しかし、現在の変化の激しさとスピードが、私たちの複雑な都市環境を脅かしている。

環境、特に水とエネルギーの消費に対する関心は、持続可能性と都市生活の質の強化を目指し、都市的生活様式のための、生態学に理解のある政策と実践に基づいたアプローチと新しいモデルを求めている。

これら新しい提案の多くは、しかしながら、持続可能な発展のための資源として自然および文化遺産を統合することになる。

II HULへの挑戦と機会

CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FOR THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE

★HULアプローチは、災害や武力紛争から生ずる変化による影響の軽減にも有効である

20. 歴史的な都市部への変化は、突然の災害や武力紛争から生じる可能性もある。これらは短期かもしれないが、影響は長く続く可能性がある。HULアプローチは、そのような影響の管理と軽減に役立つ。

Benefiting from the historic urban landscape approach

If dealt with properly, urban heritage will act as a catalyst for socio-economic development through tourism, commercial use, and higher land and property values – thereby providing the revenues out of which to pay for maintenance, restoration and rehabilitation.

Urban heritage areas generate much higher returns than areas devoid of any cultural-historic significance. Proximity to world-class monuments and sites usually draws high-end service-sector businesses and residents, who are willing to pay more for locations with prestige and status. This is reflected in land and property values.

The 250-plus historic cities that have been included in the World Heritage List deliver very significant socio-economic benefits at the local and national levels - not only through tourism and related goods and services, but also through other functions. For instance, Salzburg (Austria) constitutes only 6 per cent of the country's population, but contributes 25 per cent of its net economic product.

Urban heritage areas often demand enhanced management, because of more and/or stricter regulations controlling and monitoring the built environment, which improves planning and design if properly executed. This, in turn, increases certainty for investors as regards the safety of their investments in the long term.

都市の遺産は、適切に取り扱われると、観光、商業利用、土地や財産の価値の向上を通じて社会経済開発の触媒として機能し、それによって維持、修理、修復のための収入を提供します



★ウィーン・メモランダム

前文（1～5）

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン
（18～21）

都市開発のためのガイドライン（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこ
む、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

★勧告

前文

✓ 序（1～7）

✓ I. 定義（8～13）

✓ II. HULへの挑戦と機会（14～20）

都市化とグローバリゼーション（17）、開発
（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

III. 方針（21～23）

IV. ツール（手段）（24）

a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システ
ム、d) 資金調達ツール

V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニ
ケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

付録（用語）

III 政策

POLICIES

★政策として組み立てる必要がある。

21. 現代の都市保存政策は、既存の国際的な勧告や憲章に反映されているように、歴史的な都市エリアを保存する舞台を整えている。しかしながら、現在および将来の課題には新世代の公共政策を定め実施することが必要である。都市環境における文化的価値と自然価値の歴史的な積み重ねとバランスを特定し保存する政策である。

III 政策

POLICIES

★都市遺産の保全を一般的な政策に位置付ける。歴史的な都市構造と現代の介入を調和的に統合する

22. 都市遺産の保全は、一般的な政策の計画と実践、およびより広い都市の文脈に関連するものに統合されるべきである。政策は、短期的および長期的に保全と持続可能性のバランスをとるためのメカニズムを提供する必要がある。特に、歴史的な都市構造と現代の介入との調和のとれた統合に重点を置く必要がある。とりわけ、さまざまな利害関係者の責任は次のとおりである。

III 政策

POLICIES

22. . . . とりわけ、さまざまな利害関係者の責任は次のとおりである。

- a) 加盟国は、HULアプローチに従って、都市遺産保存戦略を国の開発政策および課題に統合する必要がある。この枠組みの中で、地方自治体は、ランドスケープやその他の歴史遺産の価値を含むエリアの価値、およびそれらに関連する特徴を考慮に入れて、都市開発計画を作成する必要がある
- b) 公共および民間の利害関係者は、HULアプローチの適用を成功させるために、とりわけパートナーシップを通じて協力する必要がある
- c) 持続可能な開発プロセスを扱う国際機関は、HULアプローチを、それらの戦略・計画および運用に統合する必要がある
- d) 国内および国際的な非政府組織は、HULアプローチを実施するためのツールとベストプラクティスの開発と普及に参加する必要がある

III 政策

POLICIES

★政策は、各レベルの政府が責任をもって決定・実行する。これら政策は、すべての利害関係者の参加型アプローチに基づいて調整する

23. すべてのレベルの政府－地方・国／連邦・地域－は、それぞれの責任を認識し、都市遺産保存政策の決定・精緻化・実施・評価に貢献すべきである。これらの政策は、すべての利害関係者の参加型アプローチに基づいて、制度的および部門別の両方の観点から調整されるべきである。

Six Critical Steps

Action Plan to Accompany the Recommendation on the Historic Urban Landscape*

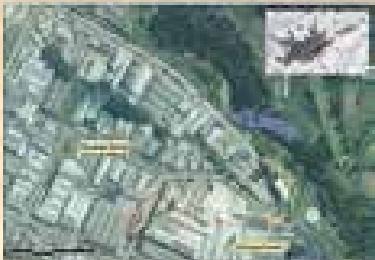


1. 総合的な調査を行い、その都市の自然・文化・人間的資源をマッピングし；
2. 参加型計画や利害関係者との協議によって、将来の世代へ受け渡すためにどのような価値を守るかについて合意し、これら価値が備える特性を明らかにし、
3. これら特性の、社会経済的ストレスや気候変動の影響に対する脆弱さを見極め；
4. 都市遺産の価値とそれらの脆弱的状态を、都市開発の幅広い枠組みに組み込み、都市計画・デザイン・都市のマネジメントプログラムに細心の注意を必要とする、歴史遺産が影響を受けやすい地域の表示を提供し；
5. 保全と開発への行動に優先順位を付け；
6. 保全と開発のために特定されたプロジェクトごとに適切なパートナーシップと地域の管理フレームワークを確立し、公私の異なる主体間のさまざまな活動を調整するためのメカニズムを開発する

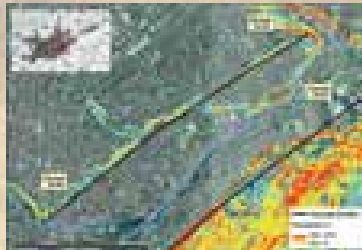
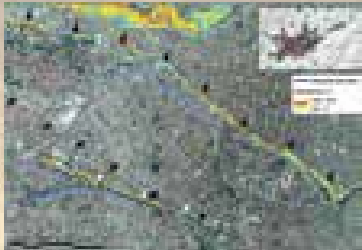
*Draft recommendation (2010.8.23)に付属

Reflexiones Temáticas: GEOLOGIA

Escarpe fluvial del río Machángara en el interior del polígono industrial de Cuenca. La línea de vegetación coincide con la traza del escarpe.



Escarpes fluviales del río Tomebamba (flechas negras) y del Yanuncay (flechas blancas) en el centro de la ciudad. Convergen a lo largo de la Av. 10 de Agosto hasta la Iglesia de la Virgen del Bronce en la Av. Solano.



Escarpe de falla interrumpido y desdibujado por la acción erosiva de los ríos Tomebamba y Milchichig



Altiplano resto de una antigua terraza aluvial de hace aproximadamente 1 Ma., afectada por cuarteos de deslizamiento (líneas rojas).



1.- Geología y Geotecnia



2.- Geomorfología



3.- Hidrología



4.- Topografía



HIDROLOGIA:

Cuenca cuenta con cuatro ríos, por lo tanto el suministro de agua en la época de los primeros pobladores estaba prácticamente asegurado.

Primeros pobladores preferían asentarse en las lomas que rodean la olla de Cuenca probablemente por visibilidad y defensa

TOPOGRAFIA:

La ciudad crece por la llanura aluvial de los cuatro ríos.

Hoy no queda mucho espacio y la ciudad empieza a crecer por las laderas empinadas que la rodean.

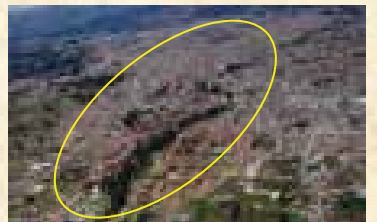
¿Qué variable controlará la distribución espacial en el futuro? ¿El vehículo?

GEOMORFOLOGIA:

Los ríos Tarqui, Yanuncay, Tomebamba y Machángara y sus llanuras aluviales, pues son los agentes que fundamentalmente han modelado la zona de estudio.

GEOLOGIA Y GEOTECNICA

Lomas, resultado de la combinación estructura geológica y resistencia de ciertos materiales a la erosión.



Altura de edificios



AHORA !! QUE OPINAN USTEDES ?

"Now! What do you think?" A map about Cuenca's geology from the HUL application
Visionary Conference community workshop, 8 May 2015, Cuenca, Ecuador.
Source: PUH_C Research Project Team

★ウィーン・メモランダム

前文（1～5）

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン
（18～21）

都市開発のためのガイドライン（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこ
む、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

★勧告

前文

✓ 序（1～7）

✓ I. 定義（8～13）

✓ II. HULへの挑戦と機会（14～20）

都市化とグローバリゼーション（17）、開発
（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

✓ III. 方針（21～23）

IV. ツール（手段）（24）

a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システ
ム、d) 資金調達ツール

V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニ
ケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

付録（用語）

IV ツール

TOOLS

24. HULに基づくアプローチとは、地域の状況に適応した伝統的で革新的な一連のツールを適用することである。これらのツールの一部は、さまざまな利害関係者が関与するプロセスの一部として開発される必要があり、以下が含まれる：

a) 市民参加ツール

Civic engagement tools

b) 知識と計画のツール

Knowledge and planning tools

c) 規制システム

Regulatory systems

d) 資金調達ツール

Financial tools



Community engagement tools should empower a diverse cross-section of stakeholders to identify key values in their urban areas, develop visions, set goals, and agree on actions to safeguard their heritage and promote sustainable development. These tools should facilitate intercultural dialogue by learning from communities about their histories, traditions, values, needs and aspirations and by facilitating mediation and negotiation between conflicting interests and groups.



Knowledge and Planning tools should help protect the integrity and authenticity of the attributes of urban heritage. They should permit the recognition of cultural significance and diversity, and provide for the monitoring and management of change to improve the quality of life and urban space. Consideration should be given to the mapping of cultural and natural features, while heritage, social and environmental impact assessments should be used to support sustainability and continuity in planning and design.



Regulatory systems could include special ordinances, acts or decrees to manage tangible and intangible components of the urban heritage, including their social and environmental values. Traditional and customary systems should be recognised and reinforced as necessary.



Financial tools should aim to improve urban areas while safeguarding their heritage values. They should aim to build capacity and support innovative income-generating development rooted in tradition. In addition to government and global funds from international agencies, financial tools should be deployed to promote private investment at the local level. Micro-credit and other flexible financing mechanisms to support local enterprise, as well as a variety of models of public-private partnerships, are also central to making the HUL approach financially sustainable.

IV ツール

TOOLS

a) 市民参加ツールは、多様な切断面の利害関係者を巻き込み、彼らに、彼らの都市エリアの主要な価値を特定し、彼らの多様性を反映したビジョンを展開し、目標を設定し、彼らの遺産を保護し持続可能な発展を促進する行動に合意する権限を与える。

これらのツールは、都市ガバナンスのダイナミクスの不可欠な部分を構成し、異文化間の対話が進むようにする。その歴史・伝統・価値観・ニーズ・願いについて、コミュニティから学び、対立する利害とグループの間の調停と交渉を促進する：



Community engagement tools should empower a diverse cross-section of stakeholders to identify key values in their urban areas, develop visions, set goals, and agree on actions to safeguard their heritage and promote sustainable development. These tools should facilitate intercultural dialogue by learning from communities about their histories, traditions, values, needs and aspirations and by facilitating mediation and negotiation between conflicting interests and groups.



COMMUNITY ENGAGEMENT TOOLS

Publicity

Dialogue and
consultation

Community
empowerment

Cultural
mapping

other?

IV ツール

TOOLS

b) 知識と計画のツールは、都市遺産の属性のインテグリティとオーセンティシティを保護するのに役立つ。それらはまた、文化的重要性と多様性の認識を可能にし、生活の質と都市空間の改善のための、変化のモニタリングとマネジメントを提供する。

これらツールには、文化的特性と自然特性についての文書とマッピングが含まれる。歴史的遺産・社会および環境への影響評価が、持続可能な開発の枠組み内で意思決定プロセスをサポートし促進するために用いられる：



Knowledge and Planning tools should help protect the integrity and authenticity of the attributes of urban heritage. They should permit the recognition of cultural significance and diversity, and provide for the monitoring and management of change to improve the quality of life and urban space. Consideration should be given to the mapping of cultural and natural features, while heritage, social and environmental impact assessments should be used to support sustainability and continuity in planning and design.



KNOWLEDGE & PLANNING TOOLS

Planning

GIS

Big data

Morphology

Impact/
vulnerability
assessment

Policy
assessment

other?

IV ツール

TOOLS

c) 規制システムは、地域の状況を反映し、社会的・環境的・文化的価値を含む都市遺産の有形無形の属性の保存と管理を目的とする立法および規制措置を含む。伝統的かつ慣習的なシステムを評価し、必要に応じて強化する：



Regulatory systems could include special ordinances, acts or decrees to manage tangible and intangible components of the urban heritage, including their social and environmental values. Traditional and customary systems should be recognised and reinforced as necessary.



REGULATORY SYSTEMS

Laws and
regulations

Traditional
custom

Policies
and Plans

other?

IV ツール

TOOLS

d) 資金調達ツールは、キャパシティ・ビルドし、伝統に根ざした革新的な収入創出開発をサポートすることを目的とする。

政府および国際機関からのグローバルな資金に加えて、地方レベルでの民間投資を促進するために、金融ツールを効果的に使用する必要がある。地元企業をサポートするためのマイクロ・クレジットやその他の柔軟な資金調達、およびパートナーシップのさまざまなモデルも、HULアプローチを資金的に持続可能なものにするための中心となる：



Financial tools should aim to improve urban areas while safeguarding their heritage values. They should aim to build capacity and support innovative income-generating development rooted in tradition. In addition to government and global funds from international agencies, financial tools should be deployed to promote private investment at the local level. Micro-credit and other flexible financing mechanisms to support local enterprise, as well as a variety of models of public-private partnerships, are also central to making the HUL approach financially sustainable.



FINANCIAL
TOOLS

Economics

Grants

Public-private
cooperation

other?

TOOLKIT FOR (CITY)



KNOWLEDGE & PLANNING TOOLS

Planning

GIS

Big data

Morphology

Impact/
vulnerability
assessment

Policy
assessment

other?



COMMUNITY ENGAGEMENT TOOLS

Publicity

Dialogue and
consultation

Community
empowerment

Cultural
mapping

other?



REGULATORY SYSTEMS

Laws and
regulations

Traditional
custom

Policies
and Plans

other?



FINANCIAL TOOLS

Economics

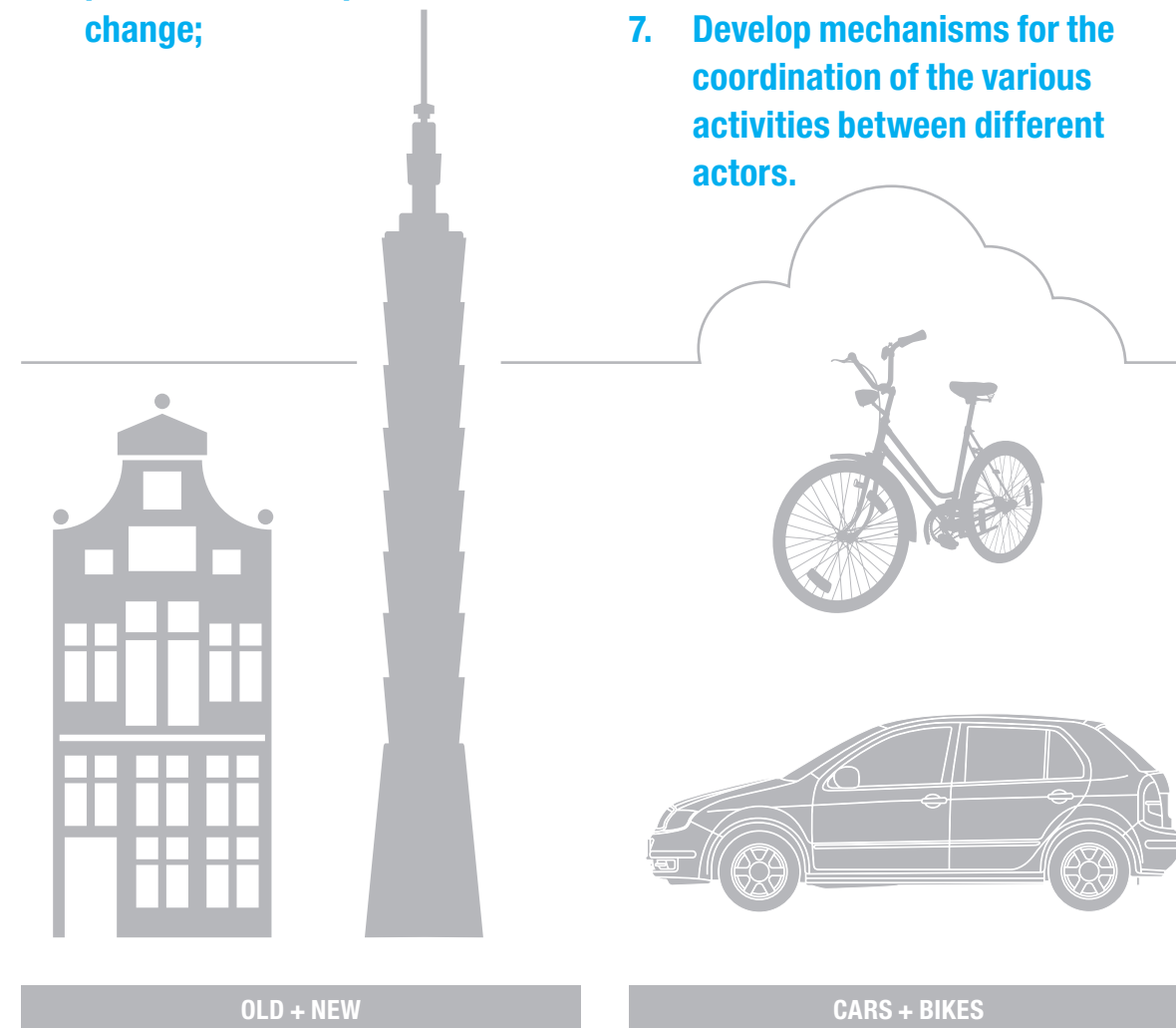
Grants

Public-private
cooperation

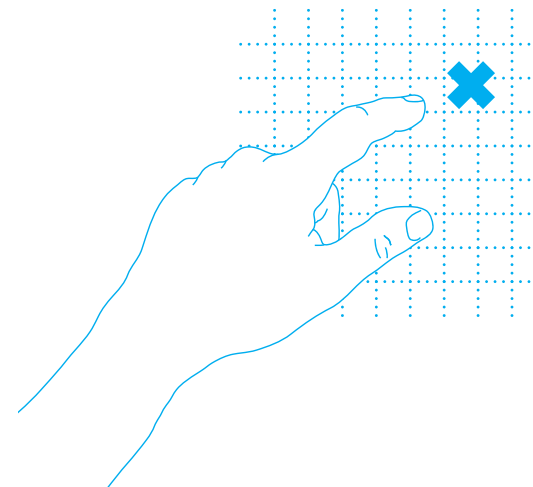
other?

The historic urban landscape approach in action

1. Undertake a full assessment of the city's natural, cultural and human resources;
2. Use participatory planning and stakeholder consultations to decide on conservation aims and actions;
3. Assess the vulnerability of urban heritage to socio-economic pressures and impacts of climate change;
4. Integrate urban heritage values and their vulnerability status into a wider framework of city development;
5. Prioritize policies and actions for conservation and development, including good stewardship;
6. Establish the appropriate (public-private) partnerships and local management frameworks;
7. Develop mechanisms for the coordination of the various activities between different actors.



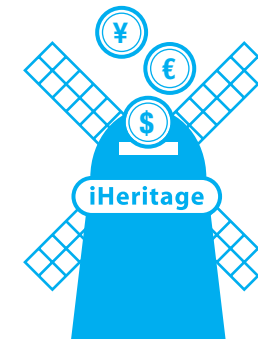
KNOWLEDGE AND PLANNING TOOLS



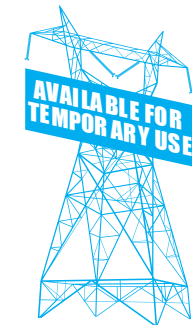
CIVIC ENGAGEMENT TOOLS



FINANCIAL TOOLS



REGULATORY SYSTEMS



★ウィーン・メモランダム

前文（1～5）

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン
（18～21）

都市開発のためのガイドライン（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこ
む、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

★勧告

前文

✓ 序（1～7）

✓ I. 定義（8～13）

✓ II. HULへの挑戦と機会（14～20）
都市化とグローバリゼーション（17）、開発
（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

✓ III. 方針（21～23）

✓ IV. ツール（手段）（24）
a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システ
ム、d) 資金調達ツール

V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニ
ケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

付録（用語）

V キャパシティ・ビルディング、調査、情報 およびコミュニケーション

CAPACITY-BUILDING, RESEARCH, INFORMATION AND COMMUNICATION

★キャパシティ・ビルディング（組織的な能力の強化・向上）に、関係者が協力して取り組み、この勧告を地域の実情に合わせて実装し、実施する

25. キャパシティ・ビルディングには、主要な利害関係者が関与する必要がある：コミュニティ、意思決定者、および専門家とマネージャで、HULアプローチとその実施に関する理解を深める。効果的なキャパシティ・ビルディングは、これらの主要な利害関係者の積極的なコラボレーションにかかっており、この勧告の実装を地域の状況に適合させ、地域の戦略と目的、行動の枠組みおよび資源動員スキームを定め改善することを目指す。

V キャパシティ・ビルディング、調査、情報 およびコミュニケーション

CAPACITY-BUILDING, RESEARCH, INFORMATION AND COMMUNICATION

★調査と調査結果の共有。調査はレイヤーと各レイヤーの価値の特定に焦点をあてる

26. 調査は、都市居住地の複雑な積み重ねをターゲットにし、価値を特定するために、それらのコミュニティにとっての意味を理解し、それらを包括的な方法で訪問者にプレゼンする。学術機関、大学機関、およびその他の研究センターは、HULアプローチの側面に関する科学的調査を発展させ、地方、国、地域、国際レベルで協力するよう奨励される。都市エリアとその進化の状態を文書として記録し、変化の提案の評価を容易にし、保護および管理のスキルと手順を改善することが不可欠である。

V キャパシティ・ビルディング、調査、情報 およびコミュニケーション

CAPACITY-BUILDING, RESEARCH, INFORMATION AND COMMUNICATION

★情報とコミュニケーション、①テクノロジーを活用、②若者や少数派グループの参加を
うながす

27. 都市エリアの複雑な層を文書化し理解しプレゼンするにあたり、情報およびコミュニケーションテクノロジーの活用を奨励する。このようなデータの収集と分析は、都市エリアの知識の重要な部分となる。社会のすべての部門とコミュニケーションをとるためには、若者やすべての少数派グループに手を差し伸べ、その参加を奨励することが特に重要である。

★ウィーン・メモランダム

前文（1～5）

定義（6～12）

原則と目的（13～17）

保全マネジメントのためのガイドライン
（18～21）

都市開発のためのガイドライン（22～26）

方法と手段（27～31）

勧告

①世界遺産委員会：評価にHULの概念を取りこ
む、②ユネスコ：新しい勧告をまとめる

★勧告

前文

✓ 序（1～7）

✓ I. 定義（8～13）

✓ II. HULへの挑戦と機会（14～20）

都市化とグローバリゼーション（17）、開発
（18）、環境（19）、災害・武力紛争（20）

✓ III. 方針（21～23）

✓ IV. ツール（手段）（24）

a) 市民参加、b) 計画やアセス、c) 規制システ
ム、d) 資金調達ツール

✓ V. 能力の構築、調査、情報およびコミュニ
ケーション（25～27）

VI. 国際協力（28～30）

付録（用語）

VI 国際協力

INTERNATIONAL COOPERATION

28. 加盟国および国際政府および非政府組織は、HULアプローチの実施にあたり、人々の理解と参加を容易にすべきである。そのために、世界の他の場所から学んだベストプラクティスと教訓を広め、知識を共有しキャパシティ・ビルディングのネットワークを強化する。
29. 加盟国は地方自治体間の多国籍協力を促進すべきである。
30. 加盟国の国際開発・協力機関、非政府組織そして財団は、HULアプローチを考慮に入れ、それらを都市エリアに関連する支援プログラムやプロジェクトと調和させる方法論を開発するよう奨励されるべきである。

勧告後（2012.12～）

1. 加盟国がHULアプローチを実施するようにマネジメントする
2. テスト・ラン
3. 他の国際機関との協調

勧告の実施に関する報告

勧告は、既存の文書や保全アプローチに取って代わるものでない。それぞれの文化的文脈の中で継承された価値と伝統に即して構築された環境保全政策と実践を、都市開発のより広い目標に統合するための追加のツール。加盟国が自主的に実施する「ソフトロー」である。実施を促進するために、ユネスコ総会は加盟国が以下の適切な措置を講じることを勧告した。

- この新しいツールを、それぞれの固有の文脈に適合させる
- それを国土全体に広める
- 支援政策を定め実施を促進する
- 歴史的な都市の保全と管理への影響をモニタする

★勧告の実施に関する報告（2015）

★勧告の実施に関する報告*（2019）

*206 EX/25.V, 2019.3.8

IMPLEMENTATION OF STANDARD-SETTING INSTRUMENTS PART V

IMPLEMENTATION OF THE 2011 RECOMMENDATION ON THE HISTORIC URBAN LANDSCAPE, INCLUDING A GLOSSARY OF DEFINITIONS -
CONSOLIDATED REPORT ON THE IMPLEMENTATION OF THE RECOMMENDATION

Q1. 2011年勧告は翻訳されているか？Yes

Q13-23. 都市エリアはどのようなカテゴリーで認識されているか？

- Historic City:10、Historic Center:186
- 古都保存法、歴史まちづくり法、重要伝統的建造物群保存地区

Q24-26. HULの定義に基づいて、すでに歴史的都市エリアの拡大をおこない、文化や自然の価値と属性の歴史的なレイヤリングを考慮しつつ、より幅広の都市の文脈とその地理的背景を含むようにしたか？

- 重伝建地区Iの範囲拡大を行なった（例：大田市）

Q28. 関係各省は、全体的な持続可能な開発の枠組みの中で、HULの、同定・評価・保存およびマネジメントの総合的アプローチを展開する手段をとったか？No

Q30. 関係各省は、SDGs、とりわけTarget 11.4を実行するために、国の努力に、国際的な都市保全政策を統合する行動をとったか？

- 国交省が景観法を定めた。この法律に基づき、地方自治体が、世界遺産周辺にバッファゾーンを設け建物の形態とデザインを規制し、明治日本の産業革命遺産周辺を保存している

Q31. New Urban Agendaは、適用され動いているか？Yes

...

Q117. HULアプローチを考慮に入れて、UNISDRのレジリエントシティ、ユネスコのクリエイティブシティ、その他の関連プログラムなどの国際プログラムとその方法を統合および調和させた歴史的な都市地域に関するプロジェクトや援助プログラムはあるか？None

勧告後（2012.12～）

- ✓ 1. 加盟国がHULアプローチを実施するようにマネジメントする
- 2. テスト・ラン
- 3. 他の国際機関との協調



Rawalpindi, Pakistan

Population: 3,363,911 (2014)

Rawalpindi has a totally different background to cities like Ballarat and Naples. Before application of the HUL programme, there were no conservation systems in the city and the public awareness of heritage was low. After applying the HUL approach, Rawalpindi has found a "common ground" for both local heritage and the environment of the city, providing a good foundation for future development of a conservation system.

Page: 38



World Heritage

Stone Town, Zanzibar City

Population: Zanzibar city 593 678 and Stone town 12 000 inhabitants.

The Stone Town of Zanzibar City is a historic coastal trading town in Tanzania. Since the inscription of Stone Town as a World Heritage property, a second area of Zanzibar City called Ng'ambo became a buffer zone and lost its status as a part of the city. Moreover, a creek creates a spatial division between Stone Town and Ng'ambo which led to social and spatial fragmentation, hindering future development. The application of the HUL approach, which analyses the site from a larger scale and context, provided a new direction for heritage conservation, improving spatial and social continuity, as well as creating a new understanding between conservation management and development by making culture a driver for local development.

Page: 42

Amsterdam, Netherlands

Population: 838,338 (city) 1,335,115 (urban)

A new policy analysis tool for the HUL approach. The research applied in Amsterdam has helped to identify how policies are composed and which HUL concepts are applied and how.

Page: 50



World Heritage



Shanghai, China

Population: Shanghai: 24,152,700 (2015)

Suzhou, China

Population: 10,578,700 prefecture-level (2013)

Similar to other cities, the need for development is very strong in China where great pressure from development usually threatens heritage. The HUL is applied in some planning process, which helps to renew the heritage conservation system with the measures of other disciplines, as well as to explore opportunities for development. Meanwhile, the most deeply-rooted and in-force heritage system in China is monument-based so the HUL approach provides new inspiration to develop the current system.

Page: 26 & 30



Ballarat, Australia

Population: 101,578 (2015)

In Ballarat, well-established regulatory methods focused on local heritage conservation evolved to more proactive and community-based approaches. The main focus of applying the HUL has been actively involving different groups of stakeholders, improving people-centred approaches and building a comprehensive 'living' knowledgebase about Ballarat to better prepare for extensive projected population growth in the historic city. The application of the HUL approach across the entire municipality has enhanced civic participation and is guiding a new framework to inspire creative responses to change and vibrancy.

Page: 20



Cuenca, Ecuador

Population: 505,585 (2010)

For Cuenca, the HUL approach delivered new methods for local conservation and intervention, taking into account the city's listing as a World Heritage property. A conventional proposal was developed to create the foundation for future culture-based development. It considered the influence of fast urban development, social economic changes (gentrification), and the impacts this has for Cuenca's cultural heritage after its inscription on the World Heritage List.

Page: 34



World Heritage



Naples, Italy

Population: 3,128,700 (2014)

Naples, a world heritage historic town and major commercial city in Italy, has a well-developed conservation system. HUL has contributed to changes regarding the management of heritage resources and highlighted the opportunity to integrate heritage among different cultural and economic sectors. The case of Naples provides a practical reflection on the application of HUL.

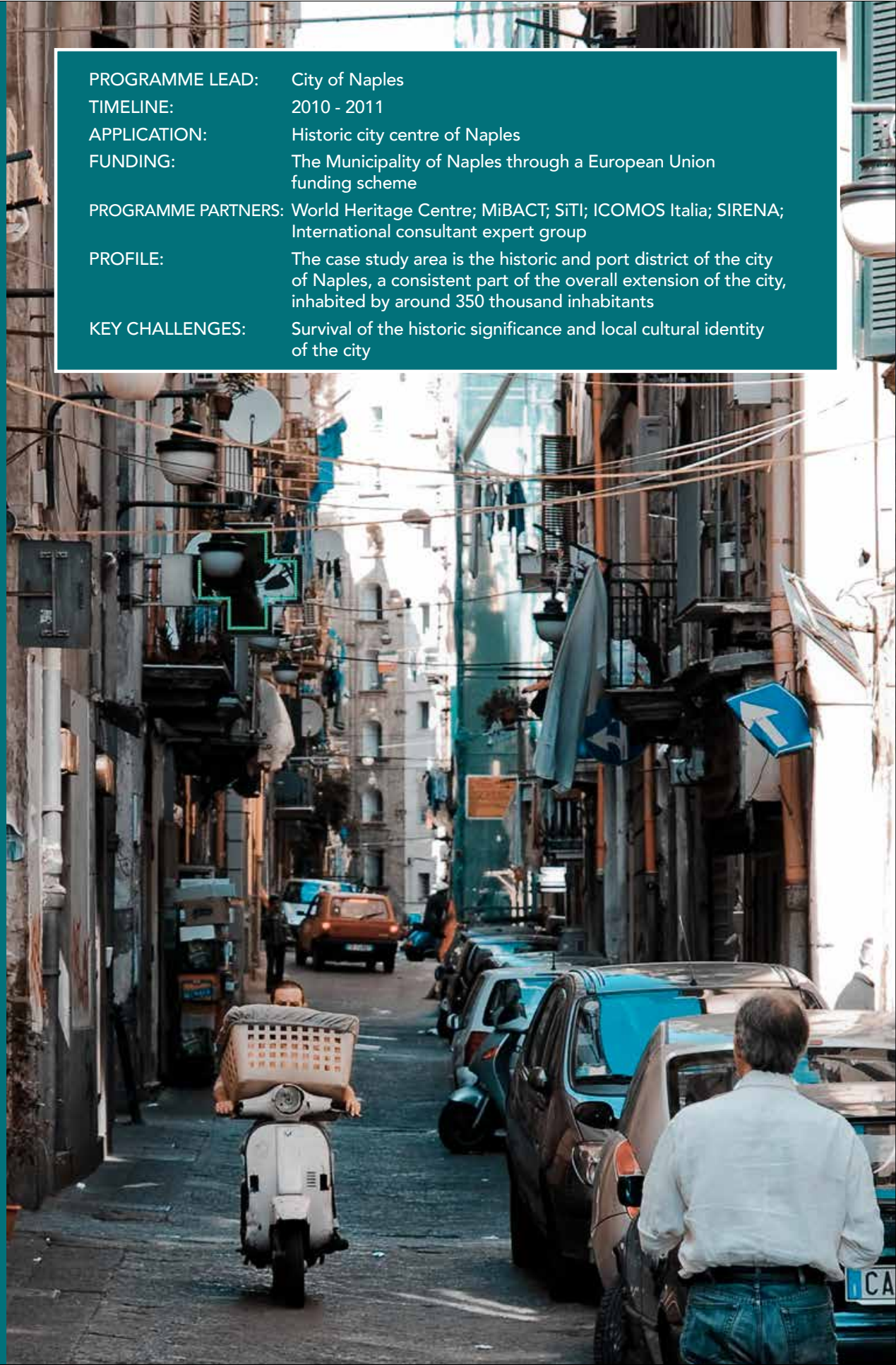
Page: 46



World Heritage



PROGRAMME LEAD:	City of Naples
TIMELINE:	2010 - 2011
APPLICATION:	Historic city centre of Naples
FUNDING:	The Municipality of Naples through a European Union funding scheme
PROGRAMME PARTNERS:	World Heritage Centre; MiBACT; SiTi; ICOMOS Italia; SIRENA; International consultant expert group
PROFILE:	The case study area is the historic and port district of the city of Naples, a consistent part of the overall extension of the city, inhabited by around 350 thousand inhabitants
KEY CHALLENGES:	Survival of the historic significance and local cultural identity of the city



Naples

ITALY

Pilot application of the HUL principles in the historic city centre of Naples (Italy)



Alessio Re, Secretary General of CSS-Ebla (founder of the International UNESCO Category 2 Centre on the Economics of Culture and World Heritage studies-ITRECH); adjunct professor at University of Torino in Management of cultural projects and Cultural Industries and Global markets.

1. Layers of the site

Naples is a major historic town, with several built layers dating from the ancient Greek time, and a major port and commercial city in the centre of the Mediterranean region. One of the main goals in approaching the management strategies for Naples was to understand the relationship of the city (site) with its environment and all the issues affecting the historical city centre were addressed at larger scales (local, metropolitan, provincial and regional). On the one hand, the buffer zone of the site was partially revised and enlarged and, on the other hand, the enhancement of the site was approached by looking at the network of the existing and the potential relationships with other cultural meanings of areas in the region.

One of the most interesting aspects of this work has been an attempt to combine the efforts of preservation of the extremely various historical built heritage with the valuation of the intangible heritage, which is as rich as the physical one. In fact, the real cultural unicity of the historic city centre of Naples is given by its extraordinary presence of different layers, density and diversity of cultural expressions and its social vitality; factors that qualify this place as real living heritage (Re, Santagata, 2011).

2. Background

The consideration of culture as a resource to set up proper projects for sustaining local development – in line with the principles proposed by the HUL Recommendation – seems to be widely shared and a central issue in the present debate for the destiny of historic cities in Italy.

One of the first occasions to apply the HUL approach, was the preparation of the management plan for the historic city centre of Naples, recognized as world heritage property since 1995².

The preparation of that document, which was completed in 2011, was conducted parallel with the preparation of the HUL Recommendation, and therefore offered a real opportunity for a practical reflection and application for some of the principles proposed by the approach, starting from the definition of the same framework for structuring the plan. In fact, such an instrument provided the possibility not to keep the protection of the site separate from the ones aimed at its valorization, especially investing in the cultural production and intangible values and networks of the city.

3. Management of change

Sewing, gastronomy (the art of making the “pizza” is now proposed for the UNESCO Intangible Heritage List), handicrafts, the nativity scene art (Cuccia, Marrelli, Santagata, 2007; De Caro, Marrelli, Santagata, 2008), as well as all the various sectors of local creative industries, including music production, which undoubtedly represent the most vital and authentic expression of the extraordinary and complex system of cultural values in the historic centre of the city, were interpreted as opportunities for generating cultural and economic value throughout the historic city.

As such, survival has been recognized as the first way to guarantee the safeguarding of the authentic historic significance of the whole city, as well as of the identity of local communities. Thus, in structuring the opportunities in action plans, the preservation of tangible and intangible assets has been approached as a combined process between conservation and development, to be achieved through the continuous production of new culture and innovation. Actions to sustain young entrepreneurship, capacity building in the creative sectors, incentivising the reuse of historic areas in the city centre for hosting new start up initiatives were concrete measures put in place to reinforce the link between the historic spaces of the city, its inhabitants and workers. All these measures were combined with policies enforcing the linkages with the territorial system and the touristic sector, which has strong potential to be developed and qualified.



COMMUNITY ENGAGEMENT TOOLS

Workshops targeted at different levels of stakeholders



KNOWLEDGE AND PLANNING TOOLS

Participatory planning



REGULATORY TOOLS

Community engagement; networking

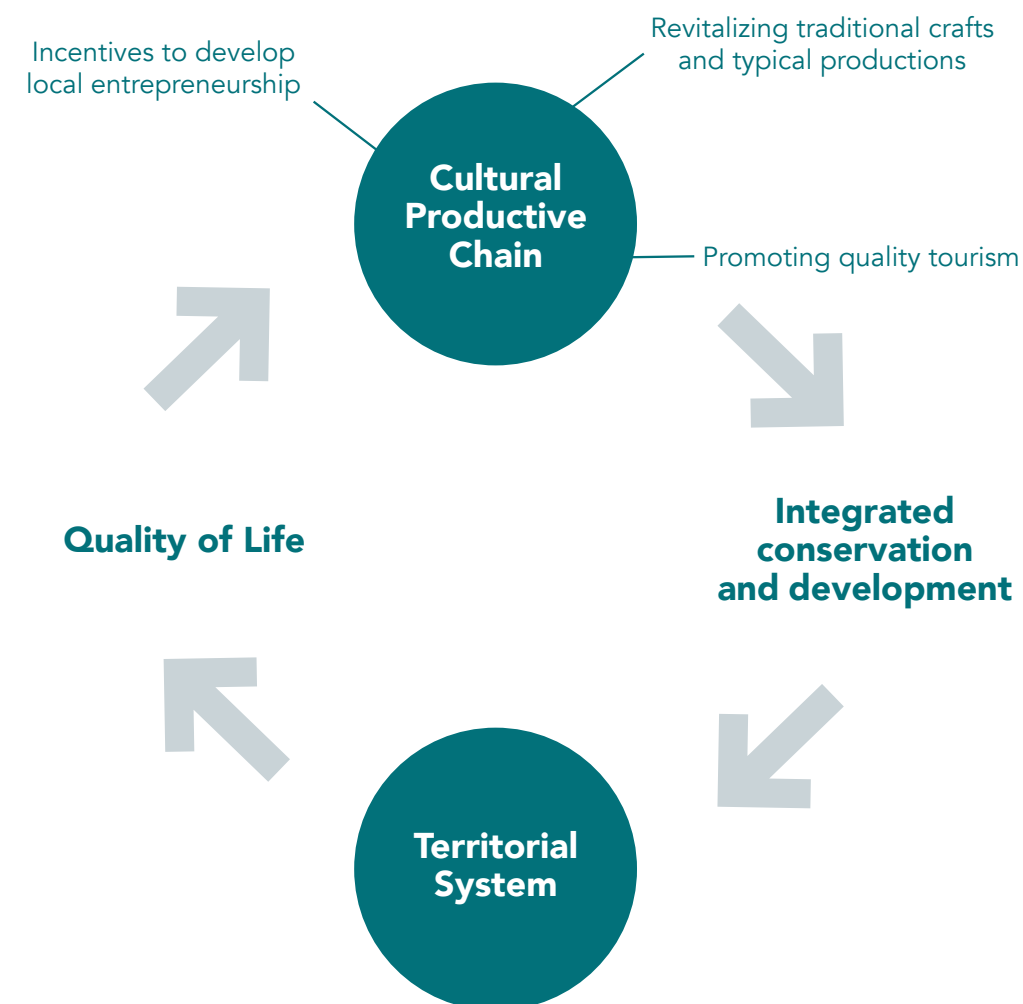


FINANCIAL TOOLS

Fiscal incentives; grants; collective branding

4. Perspectives and results

Although the first attempt of applying the HUL approach in the historic centre of Naples represents an important effort in changing approaches towards the management of heritage resources, some relevant challenges still need to find a proper solution, and this still remains problematic. For future developments, the need to enforce an effectively integrated approach among the different cultural and economic sectors is quite evident. Not only physical heritage, but the entire concept of culture as a whole represents a potential resource for generating sustainable development opportunities and a stability factor for a city with high social issues still to find a solution.





COMUNE DI NAPOLI



Stefano Tatarelli

SISTEMA
di
GESTIONE
gennaio 2011

Centro Storico di Napoli
Patrimonio Mondiale UNESCO

Ballarat

A U S T R A L I A

People, Culture and Place

Susan Fayad, Coordinator Heritage Strategy, City of Ballarat and Prof. Keir Reeves, Director, Collaborative Research Centre in Australian History (CRAH) Federation University Australia.

1. Layers of the site

Ballarat is best known as an exemplar mid-19th century Victorian gold rush city. It is located in the western region of the State of Victoria in Australia and is of state-wide importance being the largest inland city in the state and a major driver of regional growth and development.

Ballarat is a city of communities, home to many diverse peoples, each contributing their own culture, ideas and aspirations to the city's identity. Ballarat's story is one of layered change over millions of years: the natural landscape formed 500 million years ago, whilst modern Indigenous people, the Wadawurrung and Dja Dja Wurrung, have deep connections to this ancestral country spanning back at least 50,000 years.

Ballarat's urban heritage and diverse community is more recent: it is one of the world's most substantial and intact mid-19th century historic gold rush cities and one of the most important mass migrations of people during the search for gold. The intensity of this time is most evident in central Ballarat with the city's urban form established during the first 20 years of the gold rush.

Today, the city is considered the capital of Western Victoria and its key points of difference are its regional location and distinctive cultural identity. Ballarat is renowned for its intact historic streetscapes of public and commercial buildings, grand to humble housing, civic spaces, gardens and plantings. It is also acknowledged for its great lifestyle, significant cultural institutions and much loved calendar of festivals and events.

PROGRAMME LEAD: Local government authority - the City of Ballarat
TIMELINE: May 2012 ongoing
APPLICATION: The HUL approach is being applied in macro and micro ways across the entire municipality of Ballarat
FUNDING: City of Ballarat existing budget; in-kind support from partners and advisors
PROGRAMME PARTNERS: WHITRAP (Pilot city - September 2013); Federation University Australia; Deakin University
PROFILE: Population 100,283 (ABS ERP 2014); Land area 73,867 hectares (739 km²)
KEY CHALLENGES: Projected population increase of 60% between 2015 and 2040; Facilitating growth in the historic city; Climate change - a hotter, drier climate

2. Background

Collectively Ballarat's culture and heritage is responsible for significant levels of cultural-tourism visitors and new residents to the region, driving economic, social, health and wellbeing benefits. However Ballarat is facing unprecedented population growth similar to Cuenca and Zanzibar. Forecast growth is considered the single most important factor influencing the city's economic development in the short, medium and longer terms. At the same time, climate change in Ballarat means a hotter drier climate presenting great challenges for this inland city and surrounding farming communities. The most pressing challenge for Ballarat is helping the city grow and dealing with the impact of a changing climate without compromising its valued character, lifestyle and cultural identity. In 2013, the City of Ballarat became the first local authority to sign onto WHITRAP's pilot programme to implement UNESCO's HUL approach and work towards a more sustainable future for the entire municipality.



Uncle Bryon Powell, Wadawurrung Elder, welcoming participants to 'Country'
- Community day at the 2nd International Symposium on HUL - 21 February 2015, Ballarat, Australia.
(Photo: Jeremy Dillon)

3. Management of change

A key objective of Ballarat's implementation of the HUL model has been to build a framework for ensuring sustainable change. The pilot project stage of HUL in Ballarat included integrating the approach in *Today, Tomorrow, Together: The Ballarat Strategy - Our Vision for 2040*. This Strategy guides the future growth of the city and is concentrated on development, infrastructure and planning to make sure it is coordinated with future population growth. In doing so, the *Ballarat Strategy* provides an important strategic document for long-term planning throughout the municipality that balances heritage values and community identity with sustainable development. Importantly, and consistent with HUL principles, the Strategy was organised as an all of community initiative through an engagement program titled *Ballarat Imagine* - the largest 'community conversation' ever undertaken by the City of Ballarat.

Complementing the *Ballarat Strategy* was a range of collaborations and events, including two well attended international symposiums featuring notable practitioners as well as experts from Asia, Australia and the Pacific. Aligned with these events were a number of community forums that ensured community participation as well as community access to the process. The local authority, City of Ballarat, has been the driving force and auspicing body for the HUL pilot. It teamed up with key university stakeholder research partners: the Collaborative Research Centre in Australian History (CRAH) and Centre for eResearch and Digital Innovation (CeRDI) at Federation University Australia and the Cultural Heritage Centre Asia and the Pacific (CHCAP) at Deakin University, Australia.

This partnership has led to numerous collaborations and development of the HUL principles through WHITRAP, Forum UNESCO, ICOMOS, and League of Historical Cities as well as numerous Australian-based organisations. Underpinning this was a program of intern placements, externally funded PhD scholarships, honorary fellowships, visiting researchers and the development of memoranda of understanding.

The development and maintenance of an online presence of the Ballarat model was a priority throughout the pilot process. This included the development of two award-winning online tools: www.hulballarat.org.au and www.visualisingballarat.org.au that provide collaboration platforms and decision support containing a range of information about the city as well as providing an important easily accessible point of engagement to the Ballarat HUL for the wider community, practitioners and researchers.

The long-term implications of HUL can be found in the implementation of *People, Culture and Place: a new heritage plan for Ballarat 2016-2030* which sets out the application of the HUL approach in the city. It ties in with the development of a series of integrated and participatory Local Area Plans and the inclusion of HUL concepts into local planning policy regimes. These have been benchmarked in terms of delivering sustainable change and assessing vulnerability through a holistic evidence based tool: the *United Nations Compact Cities Programme: Circles of Sustainability*.

4. Perspectives and results

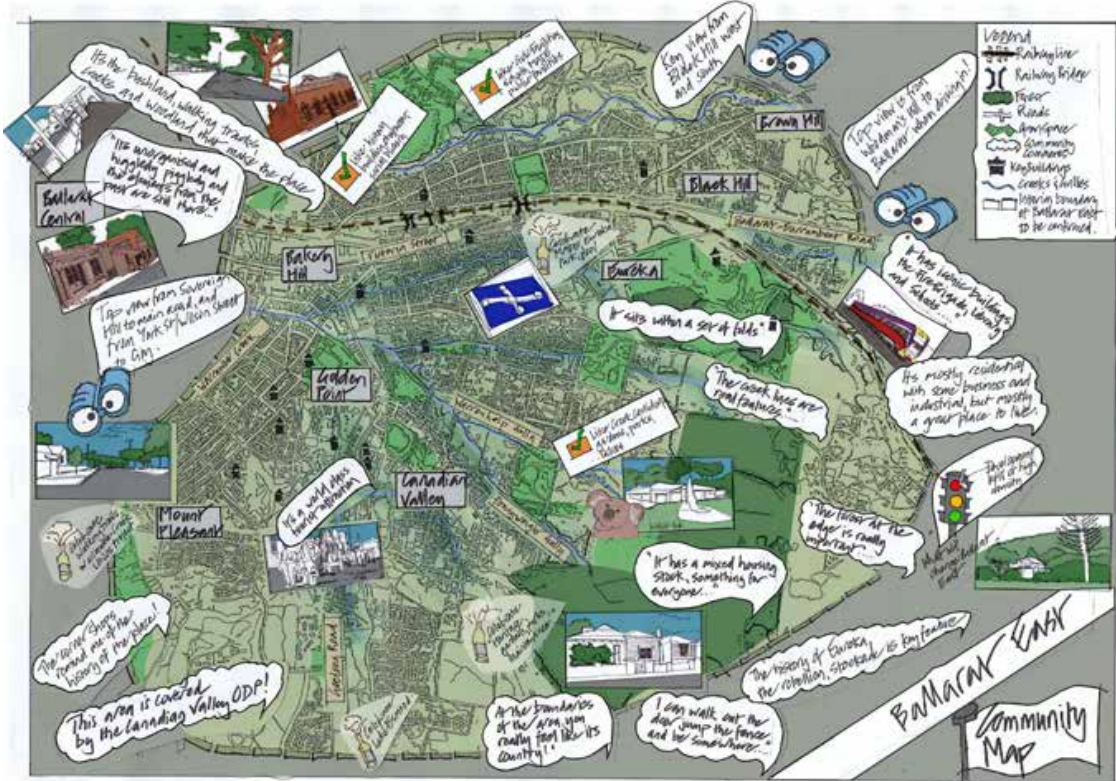
The HUL approach has been an extremely successful pilot scheme that has showcased Ballarat and its surrounding regions internationally. The community's value of their heritage, great lifestyle and sense of community were used to set the vision for *Today, Tomorrow, Together: The Ballarat Strategy – Our Vision for 2040*. As such, they became non-negotiable components of Ballarat's sustainable future. Ballarat's political leaders unanimously adopted the final strategy in 2015, committing to continue implementing the HUL approach as the guiding framework for managing change in their historic city.

In practice, applying the HUL has required evolving from largely regulatory-focussed approaches for urban conservation which can sometimes lead to heritage protection versus development. This has meant challenging the status-quo and gradually introducing new concepts across the city.

Through HUL, the local authority has developed a new model for dealing with change. At the heart of this model is localisation: local identity, local distinctiveness, local values and localised approaches. The fundamental principles that underpin the model include people-centred approaches, partnerships and collaboration, gaining new types of knowledge about Ballarat and building a culture-based framework for creative problem-solving.

Ballarat's delivery of the HUL approach has enabled the city's distinctive cultural identity – 'What makes Ballarat: Ballarat' – to be placed front and centre in its planning for the future.

Imagine Ballarat East community map (2016). (Design: Mark R Bartsch, Planning Australia Consultants. Project Officer: Maya Dougherty, City of Ballarat).



Ballarat's HUL model



COMMUNITY ENGAGEMENT TOOLS

- Cultural mapping and community maps, online crowd sourcing like timecapsuleballarat.com and social media.
- Local area participation, advisory committees.
- Info kits, interactive websites like www.hulballarat.org.au and online tools like 'My Town Hall', social media, workshops, symposiums, events, advisory committees.

PLANNING & KNOWLEDGE TOOLS

- Ballarat Imagine community conversation, research partnerships, online federated data, technical studies, evidence and benchmarks, landscape characterisation, Circles of Sustainability assessment.
- Decision support and local area info kits and briefs.
- Open data, online and internal decision support and best practice frameworks, technical studies and Local Area Plans.

REGULATORY TOOLS

- Community engagement policy.
- Statutory planning and enforcement.
- Ballarat Strategy, Ballarat Planning Scheme overlays and controls, regeneration plans, frameworks and policies.

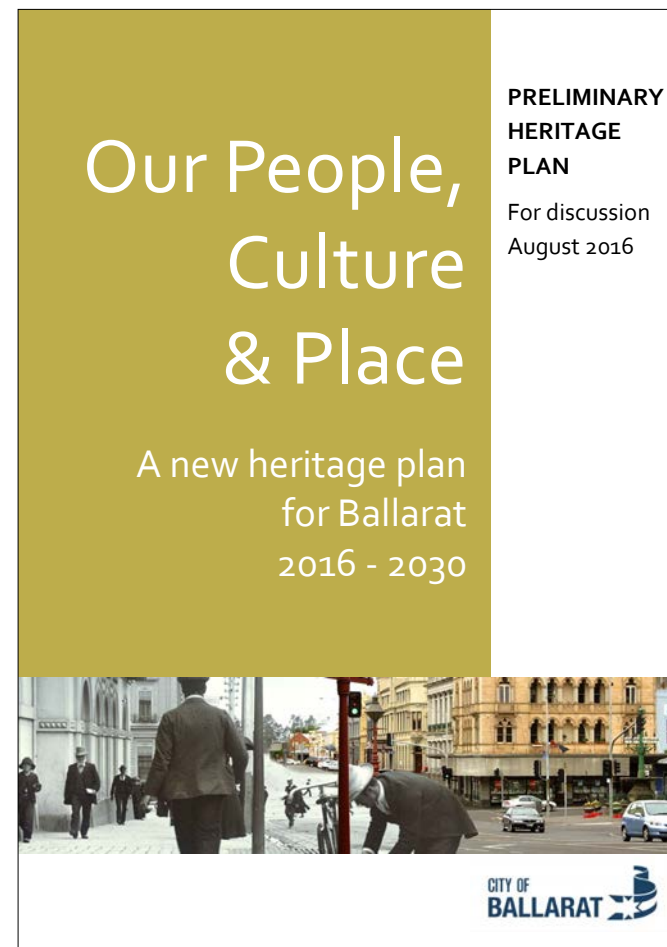
FINANCIAL TOOLS

- Research grants and seed funding.
- Grants, low-interest loans and private/public partnerships.
- Grants, low-interest loans and private/public partnerships.

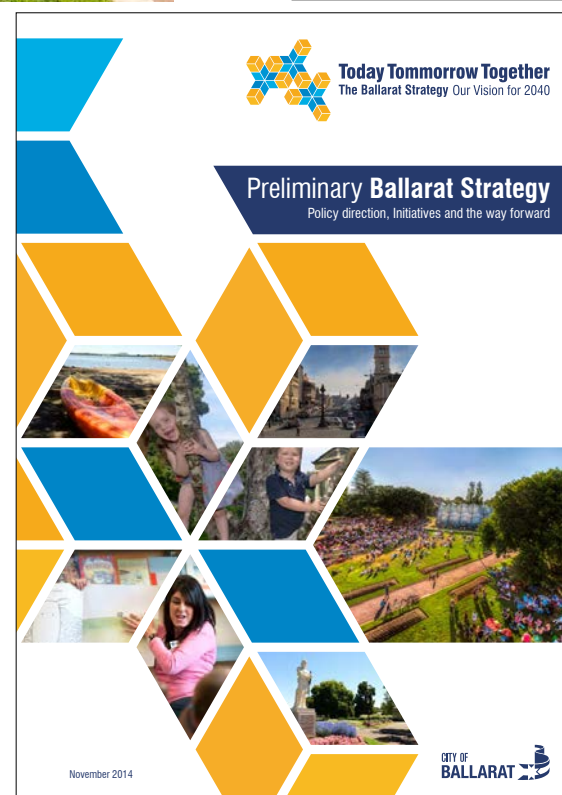
2013



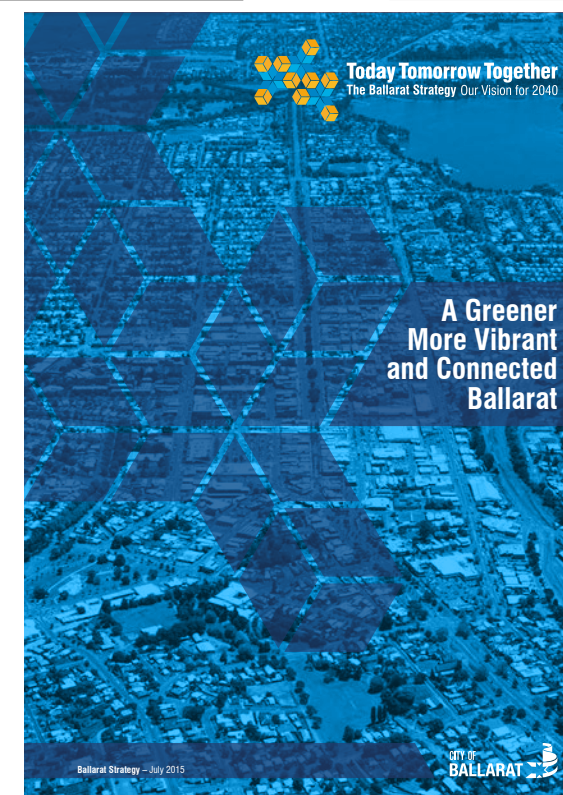
2016.8



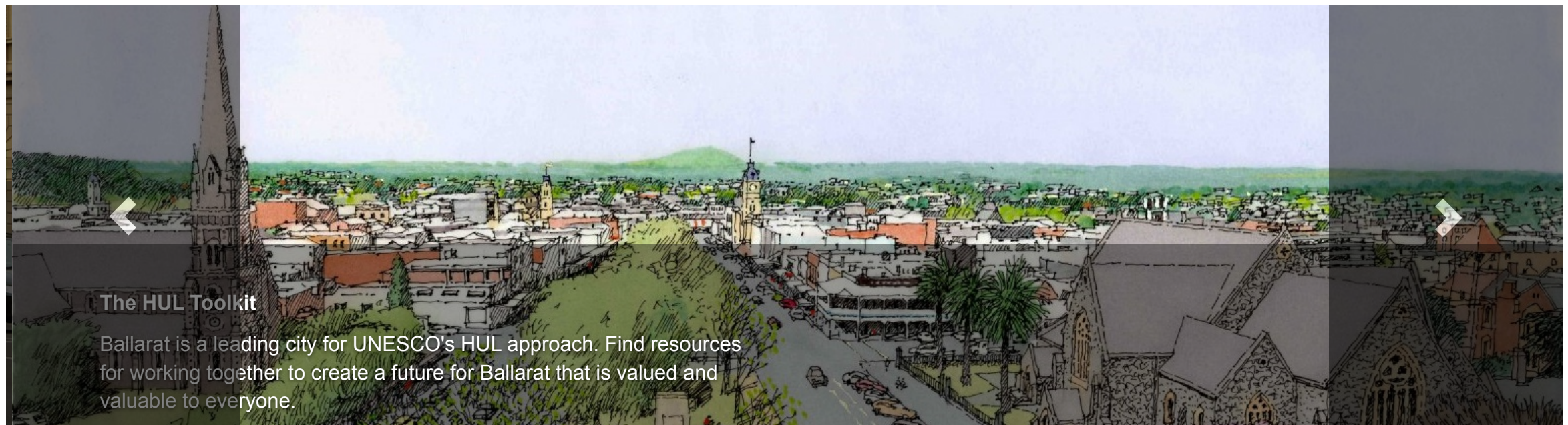
2017.12



2014.11



2015.7



Do

The HUL toolkit ▶

See

Ways of seeing Ballarat ▶

Show

What is Ballarat to you ▶

Research

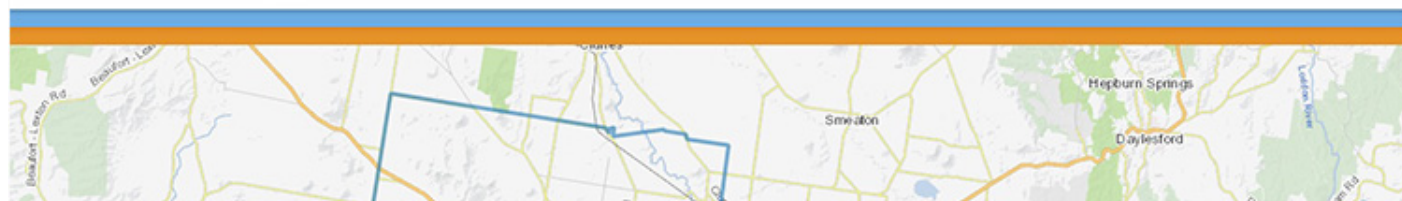
Ballarat and HUL ▶

What makes Ballarat: **Ballarat**

This website is your portal to access resources to better understand Ballarat – its distinct identity, culture, environment, history and personality – and local people's aspirations for our city. These tools allow us to work together to create a future for Ballarat that is valued and valuable to everyone.

Follow @HUL_Ballarat

VisualisingBallarat



News

Council Caretaker Period 22/9 - 24/10/2020

The City of Ballarat is in Caretaker Period from 12pm on Tuesday 22 September until

〈バララットの変化に対処するための新しいアプローチ〉

バララットを含む世界中の多くの遺産システムは、伝統的に建物や建築様式を護ることに焦点を合わせてきました。しかしコミュニティはそれだけではなく、自分たちの街をはるかに愛しています。Ballarat Imagine（良いところマップ）は、バララットの人々が、建物遺産だけでなく、ウェンドウリー湖、街路樹、公園、庭園、ブッシュ地帯、そして「バララットのライフスタイル」と文化を愛していることを物語っています。コミュニティがバララットについて最も愛しているものを失うことなく変化を管理することが重要であると物語っています。

バララット市は、ユネスコが推進する、遺産を見て歴史都市の変化に対処する新しい方法のパイロット都市になる契約を交わしました。この新しいHULアプローチは次のようなものです：

- コミュニティに、彼らにとって何が重要かを尋ねることから始めます
- コミュニティが価値があると評価するから価値があるということを受け入れます
- 変化に焦点を当てます：「どのような変化が起こり、それが私たちの街の好きなものにどのように影響しているか」を質問します

- 焦点を保存 preservation から保全 conservation へ移し、歴史都市で持続可能で公平な変化を可能にする創造的で革新的な解決法を探します

ユネスコのHULアプローチは包括的かつ多面的です。これには、「地形、地形学、水文学、自然の特徴」の考慮が含まれます。・・・（勧告と同じ）・・・。

HULの枠組みは、4つのツールと6つの行動計画で構成されています。「市民参加ツール」「知識および計画ツール」「規制システム」「金融ツール」を開発することが推奨されており、協働かつ参加によって、地域の環境に対応したものへ作り上げていきます。

6つの行動計画は、HULを実現するためのフレームワークのアウトラインをなぞったものです。ここには以下が含まれます：①都市のレイヤーの複雑さを読み取ること；②利害関係者の価値観に関する合意を可能にすること；③社会経済的要因および気候変動に対する脆弱性を理解すること；④文化遺産の価値を開発と将来の変化へのベクトルとして使用すること；⑤ポリシーとアプローチの優先順位を特定すること；⑥そして協力関係とさらなるフレームワークを構築すること。

WE LOVE

Historic heart

'Elegance and beauty of the historic and vibrant streetscapes.'

Special places

'It's a great city and lots of places to go like little athletics and the art gallery.'



Sense of community

'Wonderful spirit of a country town. Clean and tidy. Friendly people.'

Sense of history

'I love its history, which has included 6 generations of my family.'

Lake Wendouree

'I love Lake Wendouree (it's the best lake EVER!).'



Historic streetscapes and street trees

'... Big and leafy in summer, bursting with colour in autumn, sculptured when bare in winter, quick to flourish in spring.'



Views and setting

'Feeling of spaciousness and being close to forested and open farmland country.'

Cultural experiences

'Richness and diversity of its cultural life.'



Parks and gardens

'Cycling through lovely parks and streets.'





Geology

The rocks of the Victorian Volcanic Plain and the Central Victorian Uplands underpin Ballarat's complex layered histories, including the epoch defining gold rush.

Topography

Ballarat's contrasting landforms showcasing undulating plains, ridges, valleys and volcanic hills provides the mantle on which its rich cultural landscape has evolved.

Hydrology and natural features (ecology)

The flow of Ballarat's creeks, the extensive lakes and water bodies, the native forest and open plains all result from the unique geology and landform that defines the municipality.

Land use patterns & spatial organisation

Ballarat's landscape stands testament to its physical and historical development over time, reflected in the tracks, boundaries and settlements that make up its rich tapestry.

Built environment

The buildings, monuments and streetscapes of Ballarat, their varied form and detail, contribute greatly to the character of the city and the quality of its urban landscape.

Open space and gardens

The street trees, public parks and private gardens contribute greatly to the 'garden city' and the network of parks and reserves promote a feeling of spaciousness and closeness to the forest and open country that is cherished by the community.

Infrastructure (above and below ground)

The road and rail connections and the many utilities and facilities provided in Ballarat all contribute to its celebrated liveability.

Perceptions and visual relationships

The view of the city's historic skyline inspires a sense of uniqueness, whilst expansive views over Lake Wendouree and out to Mounts Buninyong and Warrenheip and the Western Plains create a fabulous setting.

Social and cultural practices and values

The many cultural and sporting events, spiritual places, galleries and ovals give a richness and diversity to Ballarat's cultural life.

Economic processes

From the city's prosperity brought by gold, through subsequent periods of boom and bust into today's globalised world, economic forces have indelibly shaped Ballarat's character.

Intangible dimensions of heritage, diversity and identity

Ballarat's diverse cultures give rise to many stories inspired by history and environment from Aboriginal understandings and the spirit of Eureka to the creation of its unique landscape.

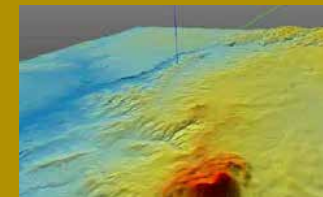
The HUL approach broadens our understanding of heritage so that we understand all the layers of city that make it what it is today.

We then use this as a point of departure for how our city evolves (see page 11 of the heritage plan).

HUL'S SIX CRITICAL STEPS

1. SURVEY AND MAP OUR NATURAL, CULTURAL AND HUMAN RESOURCES

See pages 11, 13, 44, 67-70.



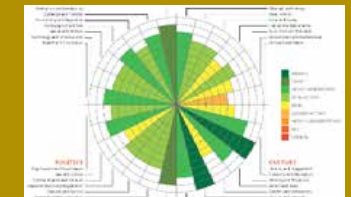
2. WORK WITH LOCAL PEOPLE TO SHAPE THE FUTURE OF THEIR CITY

See pages 1-14, 72 and throughout the plan.



3. ASSESS VULNERABILITY TO SOCIO-ECONOMIC AND CLIMATE STRESSES

See pages 15-20, 86.



4. INTEGRATE INTO WIDER CITY DEVELOPMENT FRAMEWORK

See pages 4-5.



5. PRIORITISE ACTIONS

See pages 23-82.



6. ESTABLISH PARTNERSHIPS AND LOCAL MANAGEMENT FRAMEWORKS

See pages 5, 72-81, 85.





Image: Aerial panorama from above Victoria Street looking west up Sturt Street, c1925-40 by Charles Pratt, State Library Victoria.

REGULATORY TOOLS

See pages 4-5, 59-65.

FINANCIAL TOOLS

See pages 30, 33-34, 49.

COMMUNITY ENGAGEMENT TOOLS

See pages 13-14, 30-31, 36, 37-38, 44-48, 52, 61, 67-70, 72.

PLANNING AND KNOWLEDGE TOOLS

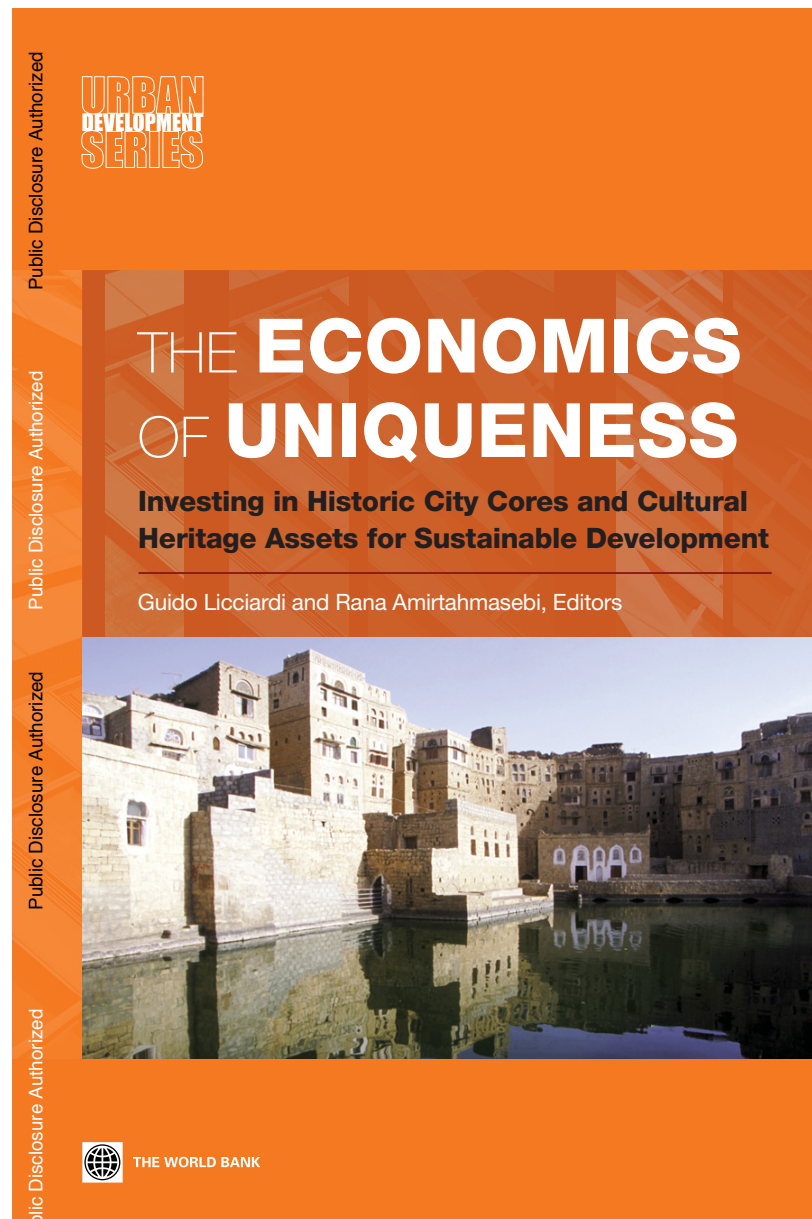
See pages 11, 18-20, 31, 44-46, 50, 60-62, 65-67, 72, 86.

勧告後

- ✓ 1. 加盟国がHULアプローチを実施するようにマネジメントする
- ✓ 2. テスト・ラン
- ✓ 3. 他の国際機関との協調

勧告後

★World Bank
(2011)



★SDGs11: Target 11.4
(国連総会、2015.9)



★New Urban Agenda
(Habitat III, 2016, Quito)



パラダイムの転換の構図（まとめ）

☆変化

- 世界規模で都市化の指数関数的増加
- 環境と都市開発の持続可能性に対する関心の高まり
- 気候変動の影響に関する都市の脆弱性
- 開発の新たな推進力として、進行中の市場の自由化・分権化および民営化を伴って、都市の役割が変化
- 世界最大の産業のひとつとしての観光業が出現
- 文化遺産が広く受け入れられるようになった、都市遺産の価値が、建築のグループを超えて人間・社会の文化的要素へ広がっている

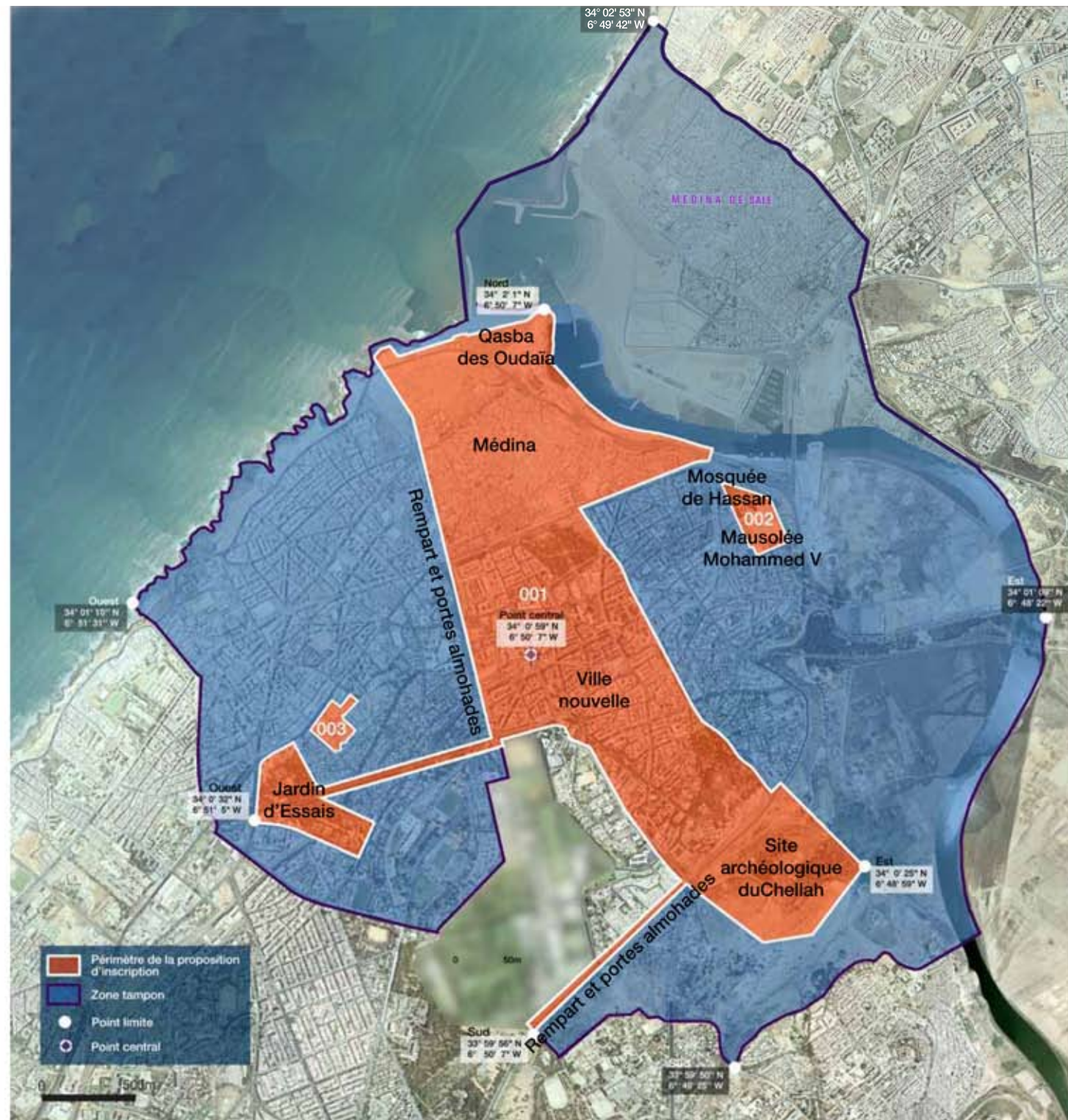
☆論点

- 歴史遺産の価値と意味：記念碑や遺跡から生きた都市や文化的景観へ
- 歴史都市エリアのオーセンティシティと完全性：地域に依拠、ユニークな解はなくなった
- 大切なものが層をなしているものとして都市をとらえる：開発と保存のトレードオフを解消
- 変化をマネジメントする：建物の修理から都市のアップグレードと変化のプロセスの管理へ
- 社会・経済開発と保存戦略と相乗効果を持ち、HULがサステナブルに維持できるように
- 環境のサステナビリティ
- 新しい手法

☆HUL

- モニュメントと都市織物の合計ではなく、総合的なシステム。複雑なレイヤーからなっている
- 物理的形態と社会、自然と人工環境をリンク
- 現代建築もレイヤのうち、現代の貢献を排除しない
- 場所の完全性と継続性をリスペクトする
- Setting、Surroundings は上モノの背景ではなく、都市の価値に本質的に組み込まれている：Context (genius loci)へ：
- 別個の「遺産カテゴリー」ではなく歴史都市エリアという概念に刻み込まれている。遺産を「領域」として捉える

Rabat, Modern Capital and Historic City: a Shared Heritage



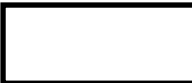
Major urban projects for the city and for the Bouregreg Valley and the lack of impact assessments in order to guarantee the visual integrity of the property and its surrounding areas

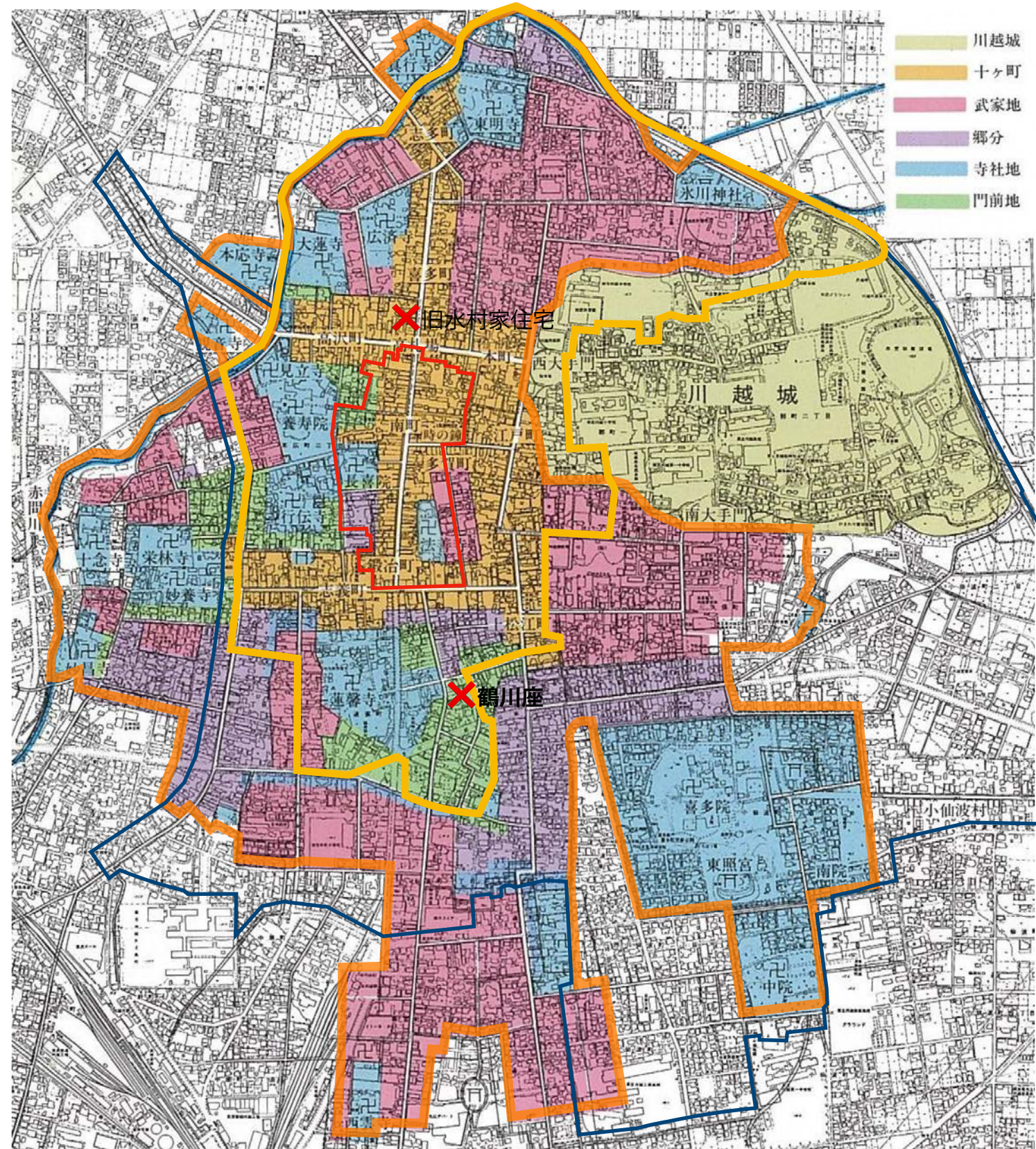
"O Tower"

川越の場合

★制度をフル装備

- 重伝建地区の周辺に、都市景観形成地域、歴史的風致維持向上計画重点地区を重ね、街なみ環境整備事業でバックアップ。94の歴史的風致形成建造物を指定
- しかし、旧鶴川座は、保存活用事業が計画されていたにもかかわらず、また江戸中期の旧水村家住宅は無指定のまま取り壊された

-  歴史的風致維持向上計画重点地区
-  街なみ環境整備促進区域
-  街なみ環境整備事業区域
-  景観計画区域（市全域）のうち都市景観形成地域（＝旧十カ町四門前）
-  重要伝統的建造物群保存地区
-  旧城下町地区



京都の場合

- 重要傳統的建造物群保存地区
 - 歴史的風致維持向上計画
重点地区
 - Height Limit: 10m
 - Height Limit: 12m
 - Height Limit: 15m
 - Height Limit: 20m
 - Height Limit: 25m
 - Height Limit: 31m
 - Scenic Landscape District
 - Perspective Space Conservation Zone
 - Closeup View Design Conservation Zone
 - Urban Growth Boundary

